

目次

はじめに	…4
1. 友愛思想と友愛運動の意義	…6
① フランス革命と友愛	…6
② 一般財団法人日本友愛協会の創設	…8
③ クーデンホフ・カレルギーの友愛	…9
④ 鳩山一郎の友愛	…9
⑤ 日本友愛協会の友愛	…10
⑥ 友愛と現実	…10
⑦ 友愛の道程	…12
⑧ 友愛と人間	…13
⑨ 友愛と利他(友愛三原則の基本理念)	…14
⑩ 友愛と共生	…14
⑪ 友愛の課題	…15
(1)友愛は自由と平等を繋ぐ絆か	…15
(2)友愛は自由と平等を繋げるか	…16
(3)友愛により自由と平等が並立する時代が訪れる	…17
2. 自由・平等・友愛は鼎立するか	…19
3. 友愛革命	…21
4. 友愛社会	…24
① 紳士と淑女の条件(自己完成を目指すこと)	…24
② 友愛社会(紳士と淑女の社会)	…26
5. 友愛国家	…29
6. 友愛の目標＝世界平和の実現	…31
7. 世界に友愛を伝播する	…32
(世界平和実現の為異体制間の和解を目指し、友愛三原則を国家レベルに昂める運動を展開する)	

8. 友愛の未来	ハチドリの一滴(ひとしずく)から	…33
①	友愛化への序曲	…33
②	科学技術(交通、通信等々)の発達による経済の発展が世界を変える	…34
③	人間の交流と相互理解が時代を変える	…35
④	21世紀は友愛革命(人間革命)の時代	…36
9. 未来をひらく一人間の解明		…38
①	人類が進歩しない理由	…38
②	人間の行き着くところ	…40
③	人間は何故生きているのか	…42
④	人間は何処へ行くのか	…43
⑤	人間の性	…44
⑥	成熟社会とは	…45
⑦	人間に関する賢者の言葉	…45
⑧	人間と動物の違い	…51
⑨	人間と政治	…52
⑩	人間と経済 経済学者の学説	…53
⑪	人間と科学=科学の発達は人間を救えるのか	…55
⑫	人間とAI(人工知能)	…57
⑬	究極の人間像	…58
⑭	人間と自然の共生(地球は人間の為に変わらない)	…59
⑮	世界の政治家と責任	…60
⑯	人間と他との共生	…61
10. 生命 生きる		…63
①	平均年齢(生存年齢)	…64
②	国民一人当たりの所得	…64
③	肉体の限界	…65
④	世界の宗教勢力	…65

⑤ 世界の最貧困層	…66
⑥ 2014年世界の軍事費	…66
⑦ 核保有国一覧	…67
⑧ 世界の人口	…68
11. メモ 世界平和の問題点	…69
I 人間を考える	…69
II 人間と自然を考える	…71
III 人間と世界を考える(厳しい世界の現実)	…73
IV 世界平和実現の道	…75
12. 日本友愛協会の創設者	…77
13. 日本友愛協会の経緯	…80
14. 友愛運動の歩み(1953～2016年6月16日)	…81
15. 資料「友愛革命」…『自由と人生』より	…83
あとがき (友愛で世界を洗濯する)	…99

文中の友愛について

友愛思想・友愛運動・日本友愛協会を一括して友愛と呼称しました。ご判読の程、宜しくお願い申し上げます。

はじめに

日本で友愛がスタートして63年の歳月が流れました。
1953年(昭和28年)、戦後の混乱をどう克服すべきか、国家としての再建や将来について、日本には難題が山積していました。

そんな混乱の時代に、鳩山一郎先生は自ら訳された『自由と人生』を原典に、友愛思想、友愛革命、友愛社会を提唱され、友愛こそ日本再興の基本であり、友愛思想を原点とした青年運動の展開は日本発展の原動力であると友愛青年同志会を結成され、自ら会長となり10万人の会員を主導し、当時の日本の政財界はじめ、日本の思想や文化に大きな影響を与えました。これが友愛運動の曙光です。

そして、政治家として55年体制を確立し、初代自由民主党総裁及び内閣総理大臣に就任。日ソ国交回復、国連加盟等友愛思想に基づく数多くの政治的懸案を解決し、戦後日本の躍進に多大な貢献をされました。

友愛の基本理念は、クーデンホフ・カレルギー伯の母性愛を核とした自己完成と、鳩山一郎先生の友愛3原則(相互尊重、相互理解、相互扶助)ですが、時代の変化に伴いその名称を、友愛青年同志会→友愛青年連盟→財団法人日本友愛青年協会、そして一般財団法人日本友愛協会と改め、今日に至りました。

今、世界は人間の自滅か共存かの歴史的転換期にあり、新たな価値観を必要とする時代となりました。

21世紀末までに世界は厳しい覇権の現実から、自然環境の変化による人口の増減や諸文化の変遷で潮目が変わり、科学の発達が経済の発展を促し格差を埋め、異体制間の和解がすすみ、人間の心は共存共栄の新しい時代に転換するものと思います。

そして、真摯に人間の未来を考える人々により友愛思想は平和のべ

ースとして世界に徐々に浸透し、地球は人間尊重の新たな時代に移行すると信じます。

私は 1953 年（昭和 28 年）4 月 29 日、日比谷公会堂で友愛青年同志会自称第 1 号会員となりました。以来 63 年間友愛運動を推進した一人として、友愛に関する諸問題を整理し、友愛概論として纏めました。この小冊子が友愛に関心のある皆様の参考になれば幸甚です。

2016 年 6 月 16 日
川手 正一郎



機関紙『友愛』創刊号
友愛青年同志会発足当時

1. 友愛思想と友愛運動の意義

① フランス革命と友愛

友愛の淵源はフランス革命の自由、平等、友愛の「友愛」です。フランス革命と友愛の概略について記しますと、フランス革命とは1789-1799年フランスで起った革命であり、その原因はブルボン王朝の積年の失政（国家財政の破綻による国民生活の困窮等々）に対し市民が絶対王政を倒し、人権宣言を公布、共和制を成立させたことです。

具体的には、1793年1月ルイ16世が処刑され、6月にマリー・アントワネットが処刑されました。

フランス革命の初期の目標は自由、次いで1792年平等が浮上。友愛「博愛」の言葉が使われたのは1793年以後と想われます。フランス革命時の自由、平等、友愛について、フリー百科辞典『Wikipedia』によりますと、次のように解説されております。

自由とは 他者に害をなさぬあらゆることを行う属人的な権利である。それは自然を原則とし、正義を規則とし、法を防壁とする。その論理的な限界はこの格言にある通りである。

己の欲せざる所は人に施すなかれ。

平等とは すべての人間は生まれながらにして平等であり、法の下で平等である。平等とは保護を与えるにせよ、罰を与えるにせよ、法は全ての人間に対し同一であるということである。生れによるどのような差別も、また権力のどのような世襲も許されない。

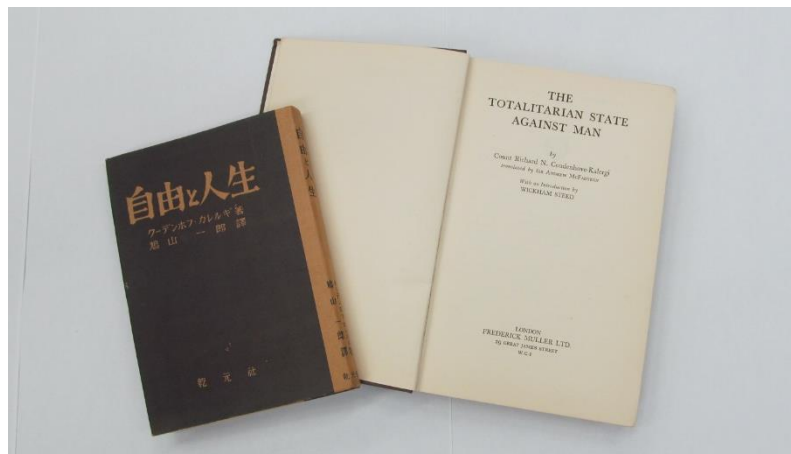
友愛とは 己の欲せざる所、人に施すなかれ。常に自分がされたいと思う善事を他者に施すように。

フランス革命の間は「友愛はフランス人のみならず外国人も含め、自由と平等の実現と維持のため戦う全ての者を抱擁するという十全な使命を持っていた。」

哲学者である『エスプリ』誌の元編集長のポール・チボーによれば、「自由と平等が権利として受け取られる一方で友愛は各々が他者に対して負う義務である。よってこれは倫理的スローガンなのである。」

つまり、友愛とは他者に対する親愛の念というだけではない。社会、共同体への義務、奉仕を意味するのである。

以上が簡単なフランス革命の概略ですが、カレルギー伯は自由の為の改革が立往生し、平等の為の改革が失敗した後、世界平和実現のためには自由と平等を繋ぐ友愛革命が必要と強調。『自由と人生』を著し、主唱しました。



鳩山一郎訳『自由と人生』初版本（左）
クーデンホフ・カレルギー著『THE TOTALITARIAN STATE AGAINST MAN』初版本（右）

②一般財団法人日本友愛協会の創設

『自由と人生』 原名 Totalitarian State Against Man

著者 リヒャルト・クーデンホフ・カレルギー 1938年刊

訳者 鳩山一郎 発行所 乾元社 1953年(昭和28年)1月1日刊

日本友愛協会は、上記『自由と人生』と鳩山一郎先生の友愛思想を原典として創設された社会団体です。

日本友愛協会の目的は、友愛を伝播し、世界平和を実現する事です。因みに、カレルギー伯は『自由と人生』出版以前の1935年に、ファシズムやヴォルシェヴィズムの終焉を予告したのです。

カレルギー伯の予告の内容は、科学技術の進歩が階級闘争・貧窮・奴隷制度をなくし、ファシズムやヴォルシェヴィズムを駆逐するという内容でした。その後世界はカレルギー伯の予告通りに変化したのです。

また、カレルギー伯は将来友愛思想で自由と平等を繋ぎ、世界平和を実現すると論述したのです。

その友愛とは、母性愛を核とした思想であり、社会や国家に波紋のように拡散する思想と説きました。

そして、人間としての最高の義務は自己完成とし、日本人的発想では、修身、齐家、治国、平天下『大学、礼記、経一章』がその理想であると語りました。

尚、友愛社会実現の手段として教育改革を行い、全ての人間は人種、宗教、言語、階級を問わず兄弟姉妹であり、同一の神の子たることが大切と提唱したのです。

日本友愛協会は、「カレルギー伯の友愛思想」と「鳩山一郎先生の友愛三原則」で世界平和を実現するため、1953年(昭和28年)4月29日東京で結成された社会団体です。

*現日本友愛協会の前身「日本友愛青年協会」の設立登記は1959年(昭和34年6月1日)文部省認可

③クレーデンホフ・カレルギーの友愛 (以下敬称略)

友愛は母性的感情が核心であり、人間としての最高の義務は自己完成（個の確立＝自立と共生）にあるとしました。

母性愛とは、母親の子に対する先天的・本能的な愛情（『広辞苑』）であり、極言すれば我が子のためには命を惜しまないという概念でもあります。

カレルギーは、一切の友愛主義、一切の人道主義に対して母性的感情はその核心をなすのである。若し主我的な生存競争が人生の男性的原理であるとせば、その相対的補足は此の女性的な原理に他ならない。母は実に我と汝との間の第一の、そしてまた最強の紐帯であって、彼女こそ一切の友愛主義の根源なのである。

此の故を以て、現代の政治及精神生活に於ける婦人の増大せる勢力が男性的価値の修正と友愛革命の勝利を齎^{もたら}すべく、決定的役割を果すべきことが期待されるのだ。

また、自己が世界の中心であることに変わりなし。その故に彼が最高の義務は自己完成であり、自己靈魂の発達にあり、醇化した自己であると、友愛について述べております。

自己完成とは、個の確立でありベースは利他、具体的には我欲の制御や感情の抑制、そして自立と共生を率先垂範できる全体主義的人間（人格者＝紳士、淑女）を目指すことです。

④鳩山一郎の友愛

人間の人格の尊厳を基調としての相互尊重、相互理解、相互扶助（友愛三原則）を基本理念とする。

鳩山は相互の人格の尊厳を尊重し、人間としての理解や信頼を深

め、相互扶助と共存共栄の心を養うことが友愛の芽を育むと説きました。また日常生活における友愛とは、自己完成を目指し、友愛理念を理解し、昇華し、自らの人間性を周囲に同心円状に伝播していくこととも述べました。そして友愛運動の原点と意義もそこにあると提唱したのです。

⑤日本友愛協会の友愛（人間の天性は愛）

愛(母性愛)を核としての自己完成を目指し、相互尊重、相互理解、相互扶助を積極的に推進する。そして、人間と人間、人間と自然の共生を希求し、世界平和を実現する。

⑥友愛と現実

世界の現状は、人間本来の理想と大きく離反し、激しく変わる内外の情勢に我々は友愛という一粒の種を播くだけかも知れません。しかし、この一粒はこれからの世界にとって掛替えのない大事な種であり、この種がやがて芽吹き、成長することにより人々に幸せと平和の扉が開かれると確信します。

人間の人格の尊厳を尊重するという友愛の思想は、誰もが、求めている謂わば人類にとって共生の出発点であります。しかし、人間は目先のさまざまな利害に捉われ、将来のあるべき姿を見失っているのです。このままですと経済的格差や自然破壊は止ることなく、人間は自ら奈落への道を歩むと懸念せざるを得ません。

全ての生物は自然から生れ、自然に還る。地球は有限です。

自然との共存共生は、人間生存の必須の条件であり、自然の摂理がありますが、人間は必要悪と知りつつもエゴから脱却できないの

です。

限りない人間の欲望（人口増加、利便の追求、人間本位の思考等々）により将来の社会はどうなるのでしょうか。人間自身のエスカレートする欲望を制御できるのでしょうか。

個人としては自制できるが、集団としては自制できない。軍拡をはじめとする人間の衆愚性を人間は認識しているのでしょうか。

○人間はひとりひとりみるとみな利口で分別がありげだが、
集団になるとたちまち馬鹿が出てくる。

フリードリッヒ・シラー（ドイツ作家 1759～1805）

人間は誰も真実は何か、それぞれ理解しています。

しかし、現在の豊かさや利便が如何に真実から乖離していても自らの欲望を捨てきれず、必要悪と知りつつも利便さから逃れようとはしません。

理想と現実の違いは何か。安易な日常は安易な人生観となり、楽をしたいと発想する人間を増やし、社会を墮落させるのです。

明日を拓くため何をすべきか。他の生存権を認める心をどう世界に広めるべきか。

人間は友愛・調和・寛容等の思考、即自立と共生の念を共有すべきですが、現実はどうでしょうか。

個人（人間的）ではみなそうありたいと思う。しかし、集団（国家、社会）では共鳴できない矛盾（**司の論理**）を解決できるのでしょうか、また人間の幸せや世界の平和は実現するのでしょうか。そして、この命題解決が友愛の課題であり、友愛社会実現への道でもあります。

○人間はパラドックスの体現であり矛盾の塊である。

オーギュスト・コント（フランス哲学者 1798～1857）

○司の論理＝集団には常に自己防衛・勢力拡大という司の理論がある。政党は選挙に勝つこと、役所は権限維持と拡大、会社は利益の最大化という絶対命令があり、時々暴走する。個人と集団の利益相反がある。 2012年8月6日近藤誠一 講演（文化庁長官）

人はとかく自分の所属する集団が正しくすぐれていると思いがちだ。どの集団に属する人もみな同じように思っている。

小さな集団に固まって独善的になり、世界が狭くなるのは避けなければならない。

⑦友愛の道程

既に論理的に組み立てられたものより逐次積み重ねていく方が土台はしっかりします。友愛の目標は友愛社会であります。決められた道程はありません。

キリスト教の頂点がキリスト、仏教は釈迦です。両宗教とも目標は同じでもその手段は異なり、多くの宗派があります。

友愛社会の実現も多くの道程があります。

特に情報革命と言われる現代は、あらゆる情報が一瞬にして国境を越え、交通の発達とともに国家や社会に大きく影響する時代となりました。そして世界はスポーツ、芸術、経済協力等、友好裡に交流がすすみ、相互理解が深まるとともに共通の価値観や連帯感が醸成され、文化の融合が促される新しい時代に移行しつつあります。

対立する民族や宗教の厳しい現実から友愛を考えますと、はるか

彼方の桃源郷のように想われます。また、中東の諸対立も 21 世紀後半までには無益な血の争いに気付き、関係諸国の努力で新たな秩序が確立され友愛化がすすみ、市民の望む平和が訪れると信じます。

友愛社会への道程は、各国の地域やグループの小さな友愛の芽がやがて同心円状に波紋となり、多くのパイプを通して国境を越え、幸せと平和を願いつつ徐々に各国社会と外交の友愛化を実現すると信じます。

⑧友愛と人間

愛は人間の深層にやどる絶対（神、真理）の表示です。

そして、人間生活（宗教、芸術、文化、政治、経済…）の素であり、いのち（魂）そのものです。従って、その愛の発露である母性愛や友愛は人間の生きる力です。

友愛は人間を浄化し(意識改革)、新しい自分づくり、人間づくり(自己完成)を目指します。友愛とは母性愛を起点とした心の革命でもあります。

○どんな愛情の中にも母性愛というものが含まれている。

ニーチェ（ドイツ哲学者 1844～1900）

○愛するということは、自分の全く正反対に生きるものをその状のまま喜ぶこと。

自分とは、逆の感情を持っている人をも、その感性のままに喜ぶこと。両者の違いのまま喜ぶのが愛することなのだ。

ニーチェ

⑨友愛と利他（友愛三原則の基本理念）

友愛は他者を認知することです。

人間は多くの生物に生かされているのです。また人間は人間集団の中で生きているのです。国家は人間の集団であり、一人では成立しません。そして人間も生物も群れて発生しました。

地球は人間中心でなく、万物が共存共栄すべきであり、生きることは全ての生物に平等でなければなりません。人間だけが勝手に生きることは他を犯すことであり、やがて自ら淘汰され、人間自身が消滅することを察知すべきです。

全生物の存在を認知することは即利他です。

そこでその利他について考えてみました。

利他とは、自分以外の他を認識すること、他を思いやることですが、墨子の「兼愛」、論語の「仁」、鳩山の人間尊重に通ずる思想であり、友愛とは表裏をなす思想でもあります。

そして鳩山は友愛具現化のため、三つの言葉を提唱しました。

その三つの言葉とは人間として互恵的利他を根にした「相互尊重、相互理解、相互扶助」の三語であり、これを我々は「友愛三原則」と称し、日本友愛協会創立以来の全ての羅針盤とし、今日に至りました。

⑩友愛と共生

自立と共生の理念に徹し、人間中心主義を捨てること（他者の認知）。地球上の全ての生物（命）との共生を最優先する。

①人間自身の欲望を自制する

②生物の尊厳を尊重する（生態系維持、自然環境保護）

③格差是正（貧富）

④差別解消（人種、国家、民族、宗教、言語等々）

⑤国家の共生、異体制間の調和（相互尊重）

地球上の全生物に生命があります。

欲望を制御できない人間に未来はありません。人間は常に自滅か共存かの岐路にあります。

⑪友愛の課題

(1)友愛は自由と平等を繋ぐ絆か

カレルギーは自由と平等を繋ぐのは友愛と述べていますが、考えてみますと自由と平等とは対極にあり、簡単に言えば、自由とは強い者が勝つこと、そして平等とは弱い者を扶けることですので、この全く相反する考え方を友愛で繋ぐことができるか、理念と現実の相違をどう解決するか、友愛にとっての現実面での大きな課題でもあります。

友愛最大の問題は利己をどう利他化していくかということですが、これは自分自身を自ら自制しなければならず、そんな神のような人間が育成できるかどうか。問題解決の道は見えず現実の厳しさに直面します。

しかし、それを克服しなければ世界の平和や全人類の幸せは未来永劫、実現不可能であり、人間社会に争いや戦は無くならず、人間の利己重視はやがて戦争や自然破壊を促進し、自らを淘汰の対象とし、自滅していかざるを得ません。

人間と動物の大きな違いは、人間の母性本能による利他の心が全ての人間にあり、環境如何によってその芽が醸成される可能性を秘めているということでもあります。

文明の発達や自然条件の変化は一定条件を超えると核や天災と同じく人間の進歩を害するものもありますが、多くの場合、人間の精神的成長に資するものであり、それによる環境や価値観の変化が、人間の本能に大きな影響を及ぼし、利他育成に効果的に働くことは、自然と科学を同時激変させた3・11後の日本人の心境変化に現れつつあるように想われます。

3・11以後の絆や連帯そして中国での調和や和諧という考え方も、原点は互恵的利他であり、友愛と共通する基盤であることは説明するまでもありません。

(2)友愛は自由と平等を繋げるか 相互理解と信頼の醸成

友愛が自由と平等を繋ぐ絆となるのか。そして自由と平等を繋ぐものがなければ、人間の幸せや、真の平和はあり得ず、人間の究極の課題はこの問題の解決であり、それが人間の新しい世界の始まりとなるように思います。人間が一刻も早くこの点に気付き、地球上の多くの犠牲を即時停止すること、そして新しい世界観を打ち立てることが、世界平和を実現するものと確信します。友愛が自由と平等を繋ぐ絆となるのかどうかは、人間がその重大さに気付くかどうか。そして各国の政治家はこの問題を具体的にどう解決しようとするのか。個人としても公人としても、各国のリーダーはこの点について充分理解し得心しているものと思います。しかし決断できないのです。それは眼前の国益を守ること、そして少しでも自国に有利にしなければ、自らの将来があり得ないという強い危機感を払拭できないからです。またその原因は、過去の歴史や自国の利害について、他国の首脳や国民を信頼できないのです。

(3)友愛により自由と平等が並立する時代が訪れる

21世紀は歴史的な大転換の時代です。

友愛は人間として理解でき、かくありたいと思う。しかし、国家として国益を考えると友愛は適さないという集団のエゴを断つことが出来るかどうか、また総論としては賛成だが各論としては、反対という矛盾をどう解決するかが最大の課題であります。人間の限りないエゴは共生を許さず、人間自身の意識改革なしに人間の未来はありません。

世界は新しい時代に向っています。環境の諸変化は同時に人間の思考回路に変化を与え、友愛の発想は環境変化とともに徐々に人間社会に浸透していくものと想われます。

友愛的思考が昂まれば当然差別、格差の壁が取り除かれ、対極にある自由と平等はその接点を見出し、知的インフラとなり国家、社会の諸施策に反影し、自由と平等が並立する新しい時代の当来となります。そして21世紀後半、友愛の時代が必ず実現するものと確信します。

カレルギーはこの点について次のように述べております。

- 友愛は、人類がより人間的となるべく自由と平等を助けるだろう。なぜならば、友愛のない自由は無政府主義に向い、友愛のない平等は専制政治に向うからである。

1967年クーデンホフ・カレルギー (1884~1972)



友愛創設者・元内閣総理大臣
鳩山一郎



鳩山薫（鳩山一郎夫人・左）と
クーデンホフ・カレルギー伯（右）

2. 自由・平等・友愛は鼎立するか

友愛は自由と平等の対立を解消し克服する思想

自由と平等の基本は、人間相互の人格の尊厳の尊重（人権）にあります。人間は対立はこの基本を無視し、自由と平等のバランスを失うところから始まります。そんな観点からこの問題を考えますと、これからの内外の全ての出発点は、人と人との関係にその根源があります。国家や宗教は、本来なら人間の共存共栄の規範であるべきですのに、人間は時として自由や平等の原点を忘れ、知性や理性を失い自らの情念(欲望)の所作から対立を招来してしまうのです。

しかし、人間は一人では生き続けられない。集団として共存共生すべきである。そして、それが人間としてのあるべき姿であることを充分承知しているのです。

また、対立の究極は貧困であり、格差であり、悲惨な戦争、そして何よりも自然破壊であることも理解しているのです。

それなのに何故対立しなければならないのでしょうか。人間は自らの欲望を慎まない限り人間以外の自然をはじめ、全ての他者と競合し、やがて自らの利便に供した文明の利器からも見放され、敵対されるかも知れません。

カレルギーは自由について、西洋の歴史は個人的自由への人間の努力の歴史である。自由の真義は、混乱や無政府を生むような自由にあるのでは断じてなく、法式に準拠して自ら発達する自由に存する。自由の在るところには、放縦暴慢は決して行われず、内部的規律がある。自由人にして初めて彼の良心を其の行為の規準とすることが出来る。不自由なる人は他人の命令に従って行動せ

ねばならぬが、自由なる人は他人の心の法則でなしに自分の心の法則を準繩(手本)として活動し得るわけだ。併し、法則の支配を受けると於ては両者全く同一であって、彼は自分の欲する儘を為すことは出来ず、其の当然為すべきことを為すのである。自由と放縦とを混同する人は、やがて自由をも喪失するに至る。彼は其の自由に値せず、従ってまたそれを佩びる資格も無い者である。そして、美の法則は個性の法則である。自由の法則は人格の法則である。18世紀に於て、自由と平等とは相提携した。19世紀に於て両者は敵となった。20世紀に於て、平等を確立せんとしたロシア革命がフランス革命に対する反対革命として出現した。

政治の面では自由と平等とは相関聯するが、経済の面では正反対である。自由主義の自由論は、平等主義の共産的理論とは相容ることが出来ない。

経済的平等は、暴力主義によってのみ維持出来る。経済的自由は、必然的に平等に導くものである。平等の理想は全体主義的国家(独裁者)を要求し、自由の理想は全体主義的人間(人格者)を要求する、と記しています。

平等とは、人間が人種・宗教・民族・信条等により国家や諸々の権力から差別されないことです。

また、自由の追及はやがて経済的な平等をも要求し、フランス革命では自由と平等を友愛で繋ぎ両者の並立を図ろうとし、ロシア革命では経済的な自由を規制し平等を目的としましたが、双方とも失敗しました。

しかし、人間にとって自由と平等をどう調和し実現するのは、これからも最大の課題であることに変わりありません。

友愛は、人類の悲願である自由と平等を並立させることですが現状では夢かもしれません。しかし地球の諸変化とともに友愛は文

化や芸術そしてスポーツの人間交流を通じ徐々に人間社会に浸透し、自由、平等、友愛の鼎立は必ず現実のものとなります。

3. 友愛革命

カレルギーは自由のための改革が立往生し、平等のための革命が失敗した後をうけて、友愛主義の革命は今や国民と国民との間、階級と階級の上に橋を渡し、もって彼ら全部に対し、自由なる人間が四海同胞たることの福音を伝えるであろうと、述べて友愛革命の必要性を強調しました。

この友愛革命とは、どのようなものであるかを考えるためには友愛という思想そのものを理解しなければなりません。カレルギーは自由と平等との対立を解消し、克服するのが友愛主義であると記し、友愛の基本をフランス革命の友愛に依拠していると説明しています。

また、カレルギーによればフランス革命は、自由、平等、友愛を目標として起こりましたが、そこには自由の革命はありましたが平等と友愛の革命はなく、しかも自由と平等は対立関係のままにされ、その上経済的平等は誰も望むところですが自由が存在しなければ全く価値のないものと、述べています。

さらに自由放任の社会は経済的不平等、富の偏在、貧困の差をより大きくし、如何にして自由と平等の対立関係を調和せしめるのか、カレルギーはこの対立解消に友愛主義を提唱し、人々に具体的に浸透する方途として友愛革命を掲げました。

革命という言葉はともすればテロを想像されるかも知れませんが、カレルギーの説く革命は力による革命でなく、人間一人ひとりの

心の革命です。

そして心の革命は暴力や強制力でなく、相互に人間が人間としての人格の尊厳を尊重することであり、人間の生まれながらにして持つ権利であると説き、国家や社会のすべての制度に優越するものだと説明しています。

従って社会の政治や経済の諸制度もこの考え方をベースにしなければなりませんし、このような考え方に基づく友愛社会は友愛主義の理想であり、心の革命のそれぞれの段階に従って少しずつ改善されて行くべきものであるということです。

友愛革命は友愛思想を徹底し人間の欲望をどう調整するか、謂わば人間の窮極の革命でもあります。

カレルギーは友愛革命について以下のように述べています。

フランス革命(1789年—1797年)は、自由、平等、友愛を掲げましたが、自由と平等に変化はなく、友愛も持てる者が持たざる者へ手を差し伸べなかったことにより、結果としては、権力は支配階級に掌握されてしまいました。しかし、19世紀になり新技術や新機械の発達による工業の発展から新階級の発生となり、農民や農業労働者から工業労働者への移行が進み、有産階級と無産階級、即ち持てるブルジョアジイと持たざるプロレタリアートなる階級の出現となりました。

レーニンは、自由はブルジョアジイの偏見であるとして、ロシア革命は1917年自由に対し平等を私有財産に対して共産制を、議会政治に対し労農政治を唱え、ファシズムは、自由、平等、友愛に対し、秩序、権威、訓練を、そして階級意識に国民意識を、自由主義に集産主義、民主主義に等級組織、議会主義に統率制度を、と提唱しました。そして近代を経て、第二次世界大戦終了とともに世界は大きく変化し、現在に至りました。

カレルギーは、科学や交通の発達は、階級と階級、都市と農村との障壁を無くし、新しい時代の到来を齎^{もたら}すとし、ロシア革命の失敗とソビエト国家の崩壊を1935年予言し、的中させ、次のように述べて居ります。

ボルシェヴィズムの全敗と工業技術の勝利とに因る階級戦の終熄は、自由の為のフランス革命と平等の為のロシア革命とに次いで友愛の為の大革命を形成する。其の目的は、自由、寛大、諒解及び人道等に於ける協同一致であって、個人主義を基礎とする社会主義であり、其の隣人の個性を尊重することを以て人格の観念に対する王冠となせるものに他ならないと、解きました。また歴史上、友愛の為の革命はただ二つを数えるだけだ。即ち仏教とキリスト教とである。蓋し、この二つの宗教は底辺は個人主義であり、頂点は社会主義だ。両宗教は、全人類を以て兄弟姉妹と見做し、互にその重荷を負担し合うように呼びかけているのである、と述べていますが実際は宗教の範疇にあり、政治思想としては波及しませんでした。

また現在の人々は、生存競争、適者生存の戒律に捉われ、他の半面、即ち第二の戒律である共同生活、共存共生、友愛という戒律を知らないのである。

そして、今こそこの第二の戒律友愛を、国民や指導者に喚び起すべきであるとしております。

また、自由の為の改革が立往生し、平等の為の革命が失敗した後をうけて、友愛主義の革命は今や国民と国民との間、階級と階級との間に橋梁を架し、以て彼等の全部に対し、自由なる人間が四海同胞たることの福音を伝えるであろうとしております。

「友愛革命」参照（巻末に掲載）／『自由と人生』より

4. 友愛社会

①紳士と淑女の条件（自己完成を目指すこと）

カレルギーは全体主義的人間の項で、理想的社会と武士道や紳士、淑女について次のように記しております。

西洋世界の文化的理想は、全体主義的人間、即ち完全なる人格に存し、その人格の自由は彼の同胞人類が自由への要求によってのみ制限されるのである。

古典時代の理想は、正しい人格と自由と調和とに存した。キリスト教の理想は、神聖と神を父とすることと隣人愛とにあった。武士道の理想は勇氣、忠誠、名誉であった。

武士道は完全な形式に於いて最大の力を要求する。主君や友人や味方に対する忠誠、神及運命に対する無邪気なる服従、敵に対し、また不幸に遭遇した際に於ける勇氣、婦人への礼儀や斟酌、貧者、寡婦、孤児への扶養の用意、老人への尊敬、敗者に対する寛大、自己の名誉を擁護し、他人の名誉を尊重するに当っての峻烈、有ゆる境遇に処する誠実と自尊、克己及厳格なる修練等々、悉く然りである。

紳士という理想は全体主義的人間（人格者）だ。何となればそれは全体的な人間を其の三個の面なる肉体と性格と精神とに於て包容しているからである。これは力士や聖僧や天才を目的としているのではなを^{いっ}作ることを理想としている。

これは同時にまた、名誉と形式の理想でもある。形式の整わない名誉の人は到底紳士ではない。また、形式は整備されていても名誉に欠けている人はこれまた紳士ではない。紳士という全体主義（人格）は一に両者の結合から生ずるのだ。

紳士とは、優雅なる人という意味であって、蛮人、野人、粗暴漢、無頼者等と正反対の地位に立つ教養ある人の義である。優美ということが力と同様に重要な性質である。紳士は勇敢なると同時に慇懃であり、真摯であるとともに才幹を備えて居り、尊敬に値するとともに、また愛嬌をも有たねばならない。彼は清い心を重んずるが、また清潔な襯衣(肌着)にも同じように注意を払う。彼は自分が尊敬されることを欲するように、またその仲間をも尊敬する。従ってその行為によって他人の神経を刺激したり、善良なる趣味習慣に反したりせぬように十分なる注意を払うのである。

ここに紳士という世界的な一団の礼式を作り上げるところの所謂礼儀というものの根本が存在する。紳士にとっては、心の礼儀が法文的な礼儀よりも極めて大切なものである。

例えば英国国王が或る外国の王族を饗応された折に食後に出された水盤の水を指を洗うものと知らずに飲んだのを見て、王自身もその水をすすった、という逸話の如きは、実にその好例を示すものである。

斯様に究極するところ、紳士の礼儀は一見非常に複雑してはいるが、要するに同胞的な思い遣りと善良なる趣味とに基づくものである。

淑女とは、紳士が一切の道徳的精粹なる如く、淑女は一切の女性的道徳の精粹なのである。淑女は道徳と美的価値とも兼備する。

ここに一人の婦人ありて黄金の心と珠玉の性格とを有するとせんか。而も彼女にしてその身体がよく洗滌せざるか、或は指先に塵埃を溜めたままで衆人の間に出れば、彼女は最早淑女ではないのである。なんとなれば淑女の使命は完全の象徴たる適正と、形式と、美との侍女たるにあるからだ。若し、運命と不幸が彼女に外的な美を拒否するならば、彼女は特にその内的の美を完全にして以

て美的価値の保護者となるのである。これゲーテがタッソオに於て「若し汝が優雅の何たるかを解せんとせば、これを気高き婦人に問え」と言った所以である。如上の意味に於いて紳士の教養は、その補足として、また伴侶として淑女の観念なしには考えべからざることなのだ。

カレルギーの唱える紳士淑女は理想の人間であり、世界平和の究極も紳士淑女にあります。しかし、あまりにも現在から懸け離れた人間と考えることなく、自ら紳士淑女（自己完成）に近づくための努力を示すことに友愛社会を拓く鍵があると思います。

(タッソオ=1761~1850年人形作家・著名人物の頭部やデスマスクを作成した)

②友愛社会(紳士と淑女の社会)

友愛社会とは、自由、平等、友愛を実現する社会であり、その社会は紳士と淑女によって構成される人間の理想的社会です。

カレルギーによれば、友愛革命の目標は友愛社会であり、具体的には淑女と紳士によって構成される社会と主張しています。

理想的な淑女と紳士とは、完全無欠な神かも知れませんが、窮極の人間であるように想われます。

カレルギーは自著の中で紳士の理想について次のように記しています。

聖僧の如き、道徳的優秀性をも天才の如き、智的卓越性をも要求しない。いやしくも普通の才能と才識を具備した人ならば、全然人間的であり、この理想に到達することが出来る。

すなわちカレルギーは、普通の才能と才識を持つ人は紳士になることが出来ると述べているのです。しかし、彼の考えている紳士は中世ヨーロッパの騎士道から英国型紳士を想定していることに

注目しなくてはなりません。

彼は英国の紳士淑女の具体像として、優雅、教養、慇懃、真摯、愛嬌、清潔等々をその特性として解説しています。ただ、紳士は男子として肉体的優越により、淑女を尊敬し保護する道徳的義務を課されるとも述べてもいます。

このようなカレルギーの説く淑女と紳士は理想ですが、常識人として考えても充分理解することはできますし、努力如何によってはその理想に近づくことも可能と想われます。しかし、この理想社会実現のためには、まずリーダーである政治家が紳士淑女を目指すべきであります。カレルギーは当時の政治家に対し極めて興味深い論述をしています。

それは今日の政治は部分的には無頼漢の手中に握られているという痛烈な言葉から始まり、政治家はその敵を欺いたり、契約を破棄したり、友人を裏切ったり、他人を不意打ちしたりすること等を自慢にしており、自分をもって善悪、是非、尊卑、貴賤を超越した存在の如く考え、しかもこのような行動によって大多数の世論の支持を得たものとうぬぼれているようなやからと論じています。彼の著書は1938年出版されましたけれども、我々は紳士淑女の観点から現在の世界各国の政治家をどう考えるのか参考にしたところでは。

また、日本の政治家の現状は友愛を基準に考えますと、如何でしょうか。民意反映の視点からしっかり政治家としての言動や行動に注目し、紳士淑女に将来を託すべきと思います。

カレルギーはこの点について、この紳士と淑女という理想の将来が政治の将来にとって決定的なのだ。この理想が一般に行き渡らぬ以上は、どの政治家も勝手に証文を破棄したり、あるいは最初

から実行する意志のないような約束を選挙民にしたりするようなことにはばからずに行うのである。この理想が確立した時こそ民主政治が初めてその磐石でゆるぎない基礎の上に据えられる時なのだ。このような時が来た際に選挙民は初めてその財産を管理し、あるいはその子の後見を依頼し得るような端正な人物、即ち紳士にその政党と国家との指導を寄託することが出来る。と述べておりますが、これを単なる理想と感ずるのかどうか、皆様の叡知に期待したいと思います。

以上の論述から推量できますが、カレルギーは政治家と国民の役割を正しく指し示していると言えるのです。

私達が現在為すべきことは何かと考えますとそれは淑女と紳士に少しずつ近づくことです。そして選挙を通じてこの理想に近い政治家を選ぶことです。また私たちは個人として、そして社会人として、淑女と紳士に成長できるのか、それとも単なる理想として捉えるのか、実際に行動に移せるか、それが友愛社会への出発点であります。

友愛社会は理想的な社会であります。単に抽象的に理解するのではなく、現実的な問題として理解していただくことが大切です。友愛社会は遠い将来かも知れませんが、人間が自己完成を目指さねばならぬ現実の問題でもあるのです。

政治家はじめ特に各国のリーダーは、紳士や淑女の基本は何かすべて知悉しています。これからは勇気を持って紳士、淑女として真の平和を実現するよう行動すべき時ではないでしょうか。

5. 友愛国家

世界は一つに集約され、友愛を核として各国の主権は世界連邦、世界共和制に移行し、分権国家がその理想です。

カレルギーは、人間と国家について次のように述べて居ります。

人間は神の創造物である。国家は人間の創造物である。

従って、国家は人間の為に存在するが、人間は国家の為に存在するのではない。国家なき人間というものは考えられるが、人間の無い国家は考えられない。人間は目的であって手段ではない。国家は手段であって目的ではない。

国家の価値は、正確にその人類に対する効能の如何に関する。即ちその人間の発達に貢献することが大なればなる程、善であるが。その人間の発達を妨碍するに至れば、直ちに悪となる。

これを以て国家は、人間の自由や安全や発達を促進し、或は妨害することによって人間の味方ともなれば、また人間の敵ともなり得るのだ。

また将来の国家の理想として次のように記しております。

友愛主義の政治的必須条件は聯邦組織であって、それは実に個人から国家を作り上げる自然なる有機的方法なのであるとし、聯合組織の国家は内的に見れば、自治制度であり、外的に云えば国家の聯合である。その集権的国家や集権的な大陸や集権的な国際聯盟の如きものを排する。自治体は、家族と人の聯合であり、郡は自治体の聯合であり、州若しくは国は郡の聯合であり、大陸は州若しくは国の聯合であり、人類は大陸の聯合である。この体系の基本とするところは、個人や自治体、国や大陸の自由にあり、その目的は相互的友愛関係にある。また、1930年前後の理想的国家とし

ては、アメリカ、スイス、イギリスをその模範とすべきと説いています。

また、カレルギーは1967年11月来日の折、次のように述べております。

米国、中国、ソ連は第三次世界大戦をいかにして阻止するかという問題を討議する会議と世界連邦を設立するため進んで提唱国とならねばならない。

もしヨーロッパが統一したならば、ヨーロッパはこれら三大国と協力し、平和のためのこの偉大な世界連邦の創立者となるだろう。1,000年以上もの間、ドイツとフランスは競争相手で、かつ敵であった。しかしアデナウアーとドゴールという2人の偉大な政治家は両国を誠実な友好国にかえた。

アジア融合のためには日本と中国がドイツとフランスの例にならうことが必要と思います。

各国は地域ごとに金融、経済、文化、芸術、スポーツ等、共同体的発想から具体化を進めることが当面の課題です。



友愛のロゴマーク／左部分はYou（あなた）を表し、右部分はI（私）を表している。YouとIでWe（私達）を形成。World（世界）につながっている。

You and I make We and World

6. 友愛の目標＝世界平和の実現

- ①人間の天性である愛の顕在化。
- ②自己完成と集団（国家）の意識改革。
- ③新しい価値観（力から愛へ）の確立。

以上を目標として次の各項を推進し世界平和に貢献します。

- ・人間と人間、人間と自然の共生
- ・格差、差別の是正
- ・軍縮と殺戮、紛争、戦争の絶滅
- ・異体制間の相互尊重

歴史の流れを変えるには司の論理を超克することです。

そして相互理解推進のため、人間交流を積極化することです。

坂本龍馬は**今一度日本をせんたくいたしたく候**と姉の乙女に手紙を書き、明治維新のさきがけとなりました。

日本友愛協会は不安と混迷を深める転換期の世界に対し、上記目標を達成するため「友愛で世界をせんたくいたしたく候」をスローガンとして、これからも積極的に運動を展開していきます。



友愛活動の原点「軽井沢友愛山荘」の現在。緑の中に多くの人が集う
所在地：長野県北佐久郡軽井沢町軽井沢東 126

7. 世界に友愛を伝播する

(世界平和実現の為、異体制間の調和と和解を目指し友愛三原則を国家レベルに昂める運動を展開する)

人間の原点は愛。愛は時に神となり、信、善、美の核でもあります。究極の愛は絶対であり完全ですが、人間は生後の環境(人種、民族、国家、思想、宗教、文化、格差、差別等々の後天的フィルター)によりさまざまに変化し善、悪、相反し対峙することもあります。しかし、性善説も性悪説も原点は愛であり、人間の天性も愛です。また人間は理性と感情のバランス如何により、時として善悪交差しますが、天性は不動です。

これからの人間は、理と情を整え、天性の愛に目覚めるべきです。そしてそれが新しい価値観の創造であり、友愛社会の実現の道でもあります。

友愛の目標達成の為には人間の交流(文化、芸術、スポーツ等)を積極的に推進するとともに以下各項を世界に伝播し、異体制間の共存をすすめることと思います。

1. 人は生かされている、他があり我があるという相互尊重の主意を世界に伝播し、自己完成を目標に戦争のない世界の実現を目指す。人間は遠からず軍拡の愚を悟ります。
2. 生きることが、人間だけに許されているのではない。生物全てが平等に生きねば人間もやがて自然淘汰されることを喧伝する。
3. 諸環境の変化(人口増減、温暖化、戦争等々)の潮目を察知すると同時に同憂の士が国境を越えて連帯し、問題解決するよう各国市民に呼びかける。
4. 情報化時代となり経済や文化の交流が活性化し、異体制間の

- 相互尊重と和解を促進するため各国リーダーに働きかける。
5. 資本主義、社会主義等の欠陥を改めるとともに、格差や差別を是正し新しい価値観を創造する。
 6. 21世紀後半を目標に、友愛三原則を内外の国家レベルに昂める運動を展開する。

8. 友愛の未来 ハチドリの一滴（ひとしずく）から

①友愛化への序曲

友愛の目標や具体化につきましては簡単に記しましたが、これからの友愛について考えてみたいと思います。

友愛の基本は人間としての生き様ですが、そんな観点から人間を考えてみますと人間は人間社会ばかりでなく、人間の生存に係わる自然を含めて人間自身を詳しく究明することが、これからの人間社会の継続に欠かせぬ条件でもあるように思います。

人類の誕生は謎ですが、しかし自然の中で多くの動植物とともに変化し進化し、今日に至りました経緯に鑑みますと、人間は生まれながらにして自然と共にあるべきであり、人間だけの永続的生存は不可能です。

そして人間自身もまた、人種、宗教、民族、言語による差別や疎外は争いの元凶であると同時に自然の摂理に反し、人間自身の滅亡に繋がる危険な兆候でもあることを悟らねばなりません。

これからの人間は、常に自身だけでなく自然を含め、相互にその尊厳を尊重しなければならないのです。

そんな観点から21世紀の人間像を考えますと、人間は自己完成に

努め、我欲や感情を抑え、他との共存共生を徹底することが、自らの永続性にとって不可欠であると認識しなければなりません。

しかし、世界の現実はどうでしょうか。

人間は、その事実を周知していながら、眼前の我欲や感情に囚われ率先し行動に移せないのです。

日本友愛協会も結成以来62年、人間そのものを改めて考える時かも知れません。

そして、人間の変化をしっかりと把握し、自然との共生や人間自身の諸問題に対し積極的に取り組み、友愛理論の構築をすすめながら友愛としての提言を行い、世界のより多くの人々に友愛の輪を広げ、友愛社会実現のムードを昂めていかねばと念願しております。世界は自滅か共存かの厳しい対立と混乱の最中ですが、各国の人々は寛容や和解、そして自立と共生についても充分理解しており、21世紀後半には自滅を避け友愛化への序曲が聞えるものと信じます。

②科学技術(交通、通信等々)の発達による経済の発展が世界を変える

○距離はマイル(長さ)によるよりも、時ではからなければならない。

カレルギー

1959年、私はアメリカに行きました。往路は、横浜からロサンゼルスへブラジル丸で2週間。復路は、ボーイングのプロペラ機でロスからハワイ、そしてウェーキ島を経由し、羽田に降りました。しかし現在はどうか。ニューヨークもパリも直行便があり、東京から世界の主要都市へは20時間以内で全て到着する時代

となりました。

やがてユーラシア大陸も東西南北、新幹線で結ばれる時代になるように想われます。

通信の発達には世界の情報を同時に共有化するとともに市民は自由に意見交換し、人間同志、国家や国境を越えて交流する環境となり、情報の共有化は価値観の共通化をすすめ、連帯意識を昂めるものと思います。

食料や工業製品は分業化が進み、科学の発達による経済の発展は格差や差別を是正し、やがて人の心を豊かにし、相互理解を深め、共存共生の芽を育て、人々を徐々に連帯化します。

21世紀末に向って世界の人々の心は共通の価値観の浸透で徐々に友愛化していくでしょう。そしてそれが人間に幸せと平和を齎す唯一の道であることを証明するものと思います。

③人間の交流と相互理解が時代を変える

情報の共有化は人間と人間の交流を促し、心と心の融和をはかり、やがて文化の相互理解を深め、人間の差別を徐々に是正するものと想われます。また経済が豊かになることが人間の心を潤し、感情を抑え、心に和みを与え、多元的な価値観のうちに利他を芽生えさせ、格差の解消をすすめ友愛化への道を拓くのです。カレルギーの発想を原点とした EU は、加盟国内の人間の交流と文化や経済の融合、そして EU の利益とリスクを一体化しました。現在、加盟国内で諸問題もありますが、団結して刷新を繰り返し変化に対応していくものと想います。

EU の成否は将来の国家や人間の共生について具体的方向を示唆する、そう思います。

BRICS や ASEAN は利害の連帯ですが、政治や経済ばかりでなく、文化の共有化に努め、成長発展するよう期待します。文化は価値観の尺度であり、共通の価値観の醸成は人間の相互理解にあります。共通の文化とは共通の価値観が基本です。

価値観の多元化する時代、積極的な人間交流が相互理解をすすめ、新しい時代を招来します。そして人間は他の行動を厳しく非難したり、軽蔑したりしないよう努めなければなりません。紳士と淑女を目指すことが新しい時代を拓くのです。

④21 世紀は友愛革命（人間革命）の時代

人間の欲望は益々激化し自滅に向うのでしょうか。それとも友愛で未来を拓くのでしょうか。私は人間の愛を信じます。

1. 科学技術の発達には経済を発展させ所得を増やし、格差是正に貢献します。
2. 限りない軍拡は国民生活を圧迫し、近い将来リーダーはその愚を悟ります。
3. 地球の異常が顕著になると人心は一変し、共存共生の価値観が定着します。

個人として、そして集団としてのエゴ（急進的ナショナリズム）がいつまで続くのか。核や武器の開発競争が人間の幸せと世界の平和を危険に向わせているのです。最早、一国の覇権や帝国主義の時代ではありません。

軍備の資力を後進国の経済の発展やインフラ整備の為に費消することが人類永遠の繁栄に資すると人間は必ず気付く筈です。そして人間と人間、人間と自然の共生の時代が必ず到来します。

人間はそういう時代にあたり、初めて友愛革命の真意を理解し、実

感するのです。最初は、ハチドリのひとしずくかも知れません。しかし、究極の平和は愛であり 21 世紀末には異体制間に相互尊重、相互理解がすすみ、人間は確実に友愛化に向うと信じます。21 世紀は人間が自己完成に努め本来の姿（愛への回帰）に戻る時です。

『ハチドリのひとしずく』 光文社刊 辻信一監修 2005 年

森が燃えていました

森の生きものたちはわれ先にと逃げていきました

でもクリキンディという名の

ハチドリだけはいつたりきたり

口ばしで水のしずくを一滴ずつ運んでは

火の上に落としていきます

動物たちがそれを見て

「そんなことをしていったい何になるんだ」

といって笑います

クリキンディはこう答えました

「私は、私にできることをしているだけ」

未来は自らつくるもの！



日本友愛協会が実施した中国における植林事業

2001 年 1 月 広西チワン族自治区柳州の植林現場（写真右上）

2011 年 6 月 10 年経過視察時の現場（写真左下）

ハチドリのひとしずくといえども、10 年の歳月が荒地を緑の山に変えた！

9. 未来をひらく—人間の解明

①人類が進歩しない理由

○人間はマス(集団)の一部になると性格が変わる。

ドナルド・キーン (2012.6.20)

○アリストテレス以来、人の思考回路は進歩もないが欠陥もない。

○人の思考回路は、古代より変りない。経験も思考も人それぞれであるにも関わらず、多くの人の間で経験的認識に一致が見られるのは人の思考回路が同じだからにほかならない。

○人間の寿命は長くはない。老年に達した聡明な研究者が、いざ人生最大の発見をしようとする間に老衰が始る。

そして文化発展のための貢献は、次の世代に委ねることになる。

次の世代は白紙の状態からやり直し、前の世代が歩んだすべての道程を再びたどり直さねばならない。

人類の進歩はこのように絶えず中断されるのだ。

カント (ドイツ哲学者 1724~1804)

人類の歴史の憶測的な起源

人間はその能力を接木できません。

キリストと釈迦を接木できれば、究極の哲学が生まれます。そして社会は桃源郷に近づきます。どんな人格者でも一生は一代限りであり、その高邁な人格を承継し、次の次元へステップアップするのは不可能です。人間は常に人間の原点に戻り、初めからやり直さなければならないところに人間としての最大の欠陥と矛盾があるの

です。

人間が天性の愛に目覚める時が新しい歴史のスタートです。

個人と集団の矛盾＝歴史は繰り返すとは人間が進歩しない証明です。

人間は個人と集団ではその思考が全く異なる部分があり、リーダーは人間の幸せや平和について、何が基本かしっかりした理念を確立しなければなりません。私人と公人では考え方が全く逆転するケースとして、平和に対する考え方があります。

平和の為に戦う軍隊、そして自国防衛の為に戦う軍隊、真の平和は武器によってもたらされるという論理が現在の国家の大前提ですが、平和と武器は対照的であり、全く相反する思想の共存で現代社会の矛盾です。大国は何故平和を唱えながら、核戦略を進めなければならないのでしょうか。多く人は、この絶対的矛盾に気づきながら、真の問題解決を諮ろうとしません。各国の軍拡と武器開発は常軌を逸し、止まる所を知りません。歴史は繰り返すという言葉がありますが、これは、文明はどんなに進化しても、人間は全く進歩しないという証ではないのでしょうか。キリストや釈迦、そして孔子の思想を凌駕する考え方や、哲学が生れないのも、その証明ではないのでしょうか。これから21世紀末まで今の論理に従い人間が進歩せずに生存し続けるとすれば、人間は動物と違い、同じ人間を大量に殺すことができる動物ですので、過去にない最悪の殺し合いが始まる可能性を否定することは出来ません。

○世界から愚かな人間がいなくなることはない。

ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ
(ドイツ詩人 1749～1832)

②人間の行き着くところ

- 人ひとりを殺した男は死刑となり百万人を殺した将軍は功績をたたえられる。戦争こそ最大の不義である。

墨子（前 486-390）

- 絶え間のない望みと恐怖を伴う欲望の渦に身をゆだねる限り、永遠の幸福と平和は手に入らない。

アルトゥール・ショーペンハウアー
（ポーランド哲学者 1788-1860）

- 人間というものは、進歩に進歩を重ねた挙句の果てに文明と名づけられるものの行き過ぎのため、自滅してしまう日が来るように思われる。

ジャン・アンリ・ファーブル（1844～1900）
ファーブル昆虫記

- 戦争という最大の悪が我々を苦しめる。しかも、将来の戦争に備えるために軍備は拡大するばかりだ。

人の暮らしを豊かにできる資金は浪費され、自由は抑圧される。国は母のような慈愛に代わり過酷な要求を国民に押しつける。この過酷さも海外からの戦争の脅威という名のもとに正当化されるのだ。

カント（前出）

- 将来の戦争は勝利に終るのではなく、相互の全滅に終る。

ラッセル（イギリス哲学者 1872～1970）

○我々の文化は緊張の呵責(叱り責めること)をもって一つの破局を目指すように突き進んでいる。

落ち着きなく強引に慌てふためいて、もはや自分を省みることなく、また自己を省みることには怖れをなして、ひたすら最後に行き着こうとする流れのように。

ニーチェ (ドイツ哲学者 1844～1900)

○人類は確実に第三次世界大戦に向って進んでいる。

破滅的な原子戦争と人類史上最大の破局へ向って進んでいる。

カレルギー

人間は滅亡に向って走っています。このままでは遠からず自滅するように思います。科学(特に武器)の発達が人間の欲望を制御するのに役立つか。それとも自らの欲望を拡大強化する為の兵器として自滅を促進する手段となるか不明です。21世紀後半には覇権を目指す国家は「亢竜の悔い有り」を参照し、世界の自滅か平和か、いずれかの選択をしなければならないのです。

それでは人間はこの現実を直視し、そして脱却する為に、どんな生き方、考え方をしなければならないのでしょうか。それは対極にある自由と平等をなんとしても並行して実現する以外に問題解決はあり得ないのです。その鍵が互恵的利他であり友愛です。社会に友愛の理念が浸透し、そのムードが現実のものとなることこそ自由と平等が並立し、友愛が自由と平等を繋ぐ絆として認知され、世界に平和が訪れるのではないのでしょうか。

理想や思想が現実のものとなるのかどうかは、その理想や思想を信ずる人の数による。その理想や思想を信ずる人が多ければ多い程、その理想や思想は実現するとカレルギーは彼の著書で述べています。

人間は将来その生存や平和を願うのでしょうか。

科学(武器を含めて)の進歩は人間の欲望と同じく無限大となり、終りはありません。そして科学の発達は人間を幸せにするのでしょうか。

人間は自らの欲望を抑えなければ、自然は枯渇し人間の生存も不可能となるのです。

各国が国益を最優先し、個人の尊厳を疎かにしたら国は亡びます。現在の地球の1年の変化は、過去100年の変化に相当するという科学者もおります。そんな環境悪化の時代でも、人間は愚かさを繰り返さねばならぬとすれば、人間の将来は暗澹たるものであり、人間は子孫に対し責任を負えません。

カレルギーや鳩山は、ますます混乱と不安の増大する世界の将来を拓くために友愛を唱え、世界の人類に覚醒を促したのです。

カレルギーはその具体策として、EUの原点となりました汎ヨーロッパを提唱したのです。今、EUは大きな試練の時を迎えていますが、将来の世界と人間の在り方を証明すべく、加盟各国は全力で問題解決に協調協力するものと期待します。

○亢竜の悔い有り＝天に登った竜は下りるしかない宿命にある。

出典：上九亢竜有悔 易経一乾（徒然草 83 段）

③人間は何故生きているのか

○人間は幸福になるために生きているのではない。

人間は私(神)の掟を成就するために生きているのだ。

ロマン・ローラン（フランス作家 1866～1944）

○自然は人の目的の為にあるのではない。

人は自然の目的のためにあるのだ。

カント（前出）

人間の生きる目的は何か。そして個人と集団の生きる目的は何故異なるのか。人間は理解していながら一元化できないのです。

④人間は何処へ行くのか

(世界は徐々に変化する そして友愛化してゆく)

○我々は何処から来たのか。我々は何者か。

我々は何処に行くのか。何処へ行こうとしているのか。

ゴーギャン (フランス後期印象派 1848-1903)

人間はそれぞれ己の長短を理解しています。しかし自身のエゴを抑制しなければ永久に同床異夢の集団自滅の道程にあり、人間生存の道は、自己完成(自立と共生)以外にないことを認識すべきです。

これから通信や交通がますます発達し、それぞれの文化が理解され人間の交流が活発になり、相互理解がすすめば世界の人々に利他の思考が醸成され、指導者如何に拘らず世界の人々は変化し友愛化するのです。今迄、どうにもならないと考えられていた価値観が一挙に瓦解する可能性もあります。ソ連崩壊や東西独逸の併合を体験し、また中近東諸国の現状を鑑みれば、大統領や首相の思惑と人間の平和思考は大きく乖離し、現実には混迷の渦中ですが、21世紀後半に世界平和が必ず訪れるものと信じます。

人間は今こそ子孫の為に、真の平和を希求しなければならない時ではないでしょうか。人々が思い遣りの心を保ち、人間以外の自然を含めて全てと共存しようとする時代に、国家のリーダーは相変わらず武器で平和をと訴え続けるのでしょうか。そんな国家であっても国民は国を超えて人間としての絆を強くすることが、社会や

国家の友愛化をすすめ、やがてその国のリーダーを目覚めさせるのです。また、どんな政治家でも平和を実現するという思想は、人間として当然具備しているものと想います。

⑤人間の性

- 人の悪しきこと、よくよく見ゆるなり。
我が身の悪しきこと、覚えざるものなり。

蓮如（浄土真宗 1415～1499）

- 知性は可能か不可能か。理性は良識のあるなしを判断する。
可能だが良識に欠ける判断もある。

マックス・ボルン（イギリス理論物理学者 1882～1970）

- 世界は理性によってではなく感情によって動かされている。

カレルギー

人間は同一地域、同一環境で平等に生きる権利があるのです。人口が増加し、自然が破壊され自滅するのか、それとも人間自身が軍拡をすすめ相互に争い自滅するのか、解決策を見出せないまま時は過ぎて行きます。中途半端な解決策より往きつくところまで行き、悟る以外に真の平和は訪れないのでしょうか。

⑥成熟社会とは

○人間を評価するレベルは男女間の関係に現われる。

男女の関係が社会全体の成熟度をはかる基準になっている。

カール・マルクス（ドイツ哲学者 1818～1883）

男女に格差、差別がある社会は未成熟社会。男女は全く平等であることが成熟社会の基本です。

⑦人間に関する賢者の言葉

○無知の知 自分は無知であると認識している者こそ賢者。

ソクラテス（古代ギリシャ知の巨人 BC469～399）

○人間はある意味で善人であるが、多くの点で悪人である。

アリストテレス（ギリシャ哲学者前 384～322）

○我思う、故に我あり。

1. とにかく疑う。
2. 徹底して細分化する。
3. 単純なものから複雑なものへ考察をすすめていく。
4. 漏れないよう見直す。

ルネ・デカルト（フランス哲学者・数学者 1596～1650）

○1. 人間はみな平等だ。

2. 平等ほど危険なものはない。

3. みんな似たような能力を持つ。

いわゆる平等状態にある限り、人々は常に相互不信を起こし、互いが敵になる。

4. 性悪説…放っておけば人々は相互不信に陥り、争い続ける。
争う原因は競争、相互不信、誇。

5. リバイアサン…巨大なお化け（国家）を管理するには。
共通のルール、共通の権力によって人々の行動の
一部を管理し、抑制すること。

トマス・ホップス（イギリス哲学者 1588～1679）

○人間はひとくきの葦にすぎない。自然の中で最も弱いものである。だがそれは考える葦である。

ブレーズ・パスカル（フランス哲学者 1623～1662）

○人間は神と悪魔との間を浮遊する。

パスカル

○性善説 正しく生きる精神が人間には自然に備わっている。
人間は自ら律する力があってそれに従って生きていくことができる。

ジョン・ロック（イギリス哲学者 1632～1704）

○神とは人なり。

新井白石（儒学者 1657～1725）

○性善説 人間の心にはもともと曲がったところなどない。
人間は本来善人で正義と秩序を愛する。

ルソー（フランス哲学者 1712～1788）

○性善説 人間の本性は先天的に善である。悪い行為は物欲
の心がこの性をおおうことによって生ずる後天的
なもの。 孟子（中国思想家 BC372～289）

- 善とは 理性的で論理的。しかもこころよいもの。
それが善である。 カント
- 神の業、人間の業。
自然の歴史は善から始まる。それは神の業だからである。しかし、自由の歴史は悪から始まる。それは人間の業だからである。 カント
- 人を尊重せよ。
物には値段がつくが人は尊厳をもっている。人を目的のための手段にしてはならない。 カント
- 性悪説 人間の本性は先天的に悪である。善たる行為は教育、学問、修養など後天的な作為によって生ずる。
荀子（中国思想家 BC298～238）
- 欲治其国者、先齊其家、欲齊其家者、先修其身。
（修身、齐家、治国、平天下）
大学礼記（中国周～秦・漢時代）
- 仁(人間愛)と礼(規範)に基づく理想社会（論語）。
孔子（中国思想家 BC551～479）
孔子は家族中心の倫理の拡大で政治を律することができるかと説きました。（家族道徳を根幹とする思想）
- 兼愛 平等無差別な人間愛。
（自分と同じように他人を愛せよ）
墨子（中国思想家 BC480～390）
墨子は、人間はすべて平等であり、差別しないと説いた。
- 自由＝人間が本来的に持つ道徳観（理性）に従って行動すること。もしその行為が人として本当に正しいと言えないならば、

それは真の自由ではない。人間は理性の動物だから、その理性に従って行動するときこそ真の自由を獲得している。

カント

○平和は人類最高の理想なり。

ゲーテ（ドイツ詩人 1749～1832）

○自由論

他人の権利を侵害しない限り、人は自由である。

他人に迷惑をかけるような勝手な振る舞いをしてはいけない。

社会の恩恵を受ける限りやはり人は自由の一部を制限され、

何らかの義務を負う。

ジョン・スチュアート・ミル

（イギリス哲学者 1806～1873）

○自由からの逃亡

人は自由から逃げるもの。

自由を手に入れれば入れるほど孤独になっていく。

居心地のよい限定された自由。

愛も義務も良心も愛国心も結局は孤独から逃れるための手段。

エーリッヒフロム

（ドイツ社会心理学者・コロンビア大学教授 1900～1980）

○殆どどの人の意見は受け売りに過ぎない。

エーリッヒフロム

○人間は破滅に向って旅している。

人間というのは不完全な存在、どんな英知を結集しても自然を征服したりすることはできない。人間は個人としても集団としても、それぞれの欲望を制御しなければ動物と同じく弱肉強食の世界へ移行し、混乱はますます激しく、やがて人間は自らの

争いにより滅亡する。人間は絶滅の危機を避けるため、人間と人間、人間と自然の共存を模索して来たが、その具体的解決手段を理解しているにも拘わらず、目的達成は遅々とした状況下にある。人間は動物と違い、大量に同胞を殺すことのできる動物であり、人間は常に全滅の危機にある。

レイチェル・カーソン（アメリカ生物学者 1907～1964）

- 人口の増加分が食料の増加分を上回った社会において人間は貧困に陥ってしまうが、人間は様々な手段でそれを回避しようとする。そのための最も効果的手段は戦争である。

疫病は天の恵み。自然に人が死んでくれる程有難いことはない。戦争や疫病で多勢の死んでくれることが人間に幸福をもたらす。

トマス・ロバート・マルサス
（イギリス聖職者 1766～1834）

- 社会制度を改変し、格差を解消し、自由平等な調和社会を創設する。財産の不平等こそ貧困と悪徳の原因。

ウィリアム・ゴドウィン
（イギリス政治評論家 1756～1836）

- 世界平和の唯一の希望は、人類が男性だけではなく、その半分以上が女性であるという事実にある。

男性は戦争が好きであるが、女性は平和を愛している。

- 国際関係が戦士の本能をもった男性によって専ら運営されるかぎり、地上に平和は来ない。

男性と女性の道徳的価値観は異なっており、勇気が男性の最大の価値であるのにたいし、女性のそれは慈悲である。

1972年カレルギー

○「文明の衝突」1996年著

異なる文明を背景とするグループ間の対立。

1. 中華文明
2. 日本文明
3. ヒンドゥー文明
4. イスラム文明
5. 西欧文明
6. 東方正教会文明
7. ラテンアメリカ文明
8. アフリカ文明

サミュエル・フィリップス・ハンティントン
(アメリカ国際政治学者 1927～2008)

文明の衝突は世界を破壊します。

異なる価値観の共存、相互尊重、相互理解を異文明間に推進することが世界平和実現の基本です。

○うばい合えば足りぬ。

わけ合えばあまる。

うばい合えば憎しみ。

わけ合えば安らぎ。

相田みつを (書家・詩人 1924～1991)

○目の前の幸福を棄て、遠い未来の人類の幸福を願う程の叡知を
神は人類に与えてくれない。

市川森一 2011.8.14 (日本経済新聞)

以上、人間についての世界の賢者の考え方と言葉ですが、人間の矛盾

は指摘できてもその解決についての示唆や説得力のある言葉はありません。賢者は人間の性は永遠に変わらぬと諦め、人間を見放したのです。しかし、将来を考えますと人間は自らの矛盾を自覚し、自己完成を目標に自我を抑制しなければ絶滅すると悟らねば未来はありません。

人間は制御不能な動物なのでしょうか。

世界平和の原点は愛です。その愛を行動に移すのは勇気です。

⑧人間と動物の違い

サルの DNA は 99%人間に近い。しかし本質は全く違う。

人間とサルの決定的違いは思考力。真偽、善悪を識別する力です。

○人間は動物と違い同胞を大量に殺すことができる。(カーソン)

○人間を動物と区別する、この素晴らしい能力。これを理性と呼ぼう。

この力こそが人間らしい善なる心を生み出せるのだ。(カント)

○人間は天使でもなければ獣でもない。しかし、不幸なことに人間は天使のように行動しようと欲しながら獣のように行動する。

(パスカル)

○人間は野獣と超人のあいだに渡された一本の綱で、その下に深淵が口を開けている。

フリードリッヒ・ニーチェ (ドイツ哲学者 1844~1900)

人間の課題は我欲(覇権)を制御することであり、それが世界平和と生態系保護実現の鍵となるのです。

人間の争いは動物以上に厳しく容赦しません。

人間は己の利便のため自己本位になるのです。そして人間の利便とは人間のエゴです。

⑨人間と政治

○人間社会は論理だけでは治められない。政治のベースは感情である。感情のベースは欲望とのバランスである。
(発言者不明)

○政治の真の目的は自由の実現である。

ベネデク・トスピノザ (オランダ哲学者 1632-1677)

○政治は政治家のエゴそのもの。

ゲーテ (ドイツ詩人 1749-1832)

○政治とは力である。

原敬 (政治家元首相 1856-1921)

○政治とは倫理である。

後藤新平 (政治家元東京市長 1857-1929)

○人間とは良い方にも悪い方にも転び、状況によって天使となったり悪魔になったりするところに、技術として政治が発生する地盤がある。政治の前提とする人間とは、このように「なぞ」的な人間である。

丸山真男 (政治学 東大教授「人間と政治」)

○真の政治理論は、すべての人間を「悪なるもの」という前提で考えてきた。

そして危険かつ動的な存在とみなしてきた。政治が政治である
究極は敵、味方関係である。友愛、友敵。

カール・シュミット

(ドイツ政治学者「政治的なものの概念」1887-1985)

政治の目標は幸せと平和であります。その手段は対極にある武器。
人間はその矛盾に気付きながら相互不信を拭えず、武器を放棄でき
ないのです。近年、大量殺戮兵器の開発がますます拡大している世界
の情勢ですが、それは世界に相互不信のムードが増大している証拠
であり、政治家は今こそこれを信頼し世界の平和を目指し問題解決に
あたるべき時です。

⑩人間と経済 経済学者の学説

国の盛衰は富の公平な分配如何によります。

○出発点は労働である。

自然価格と市場価格。

自然価格 「労働の量」「土地代」「利潤」。

市場価格 需給関係で価格が決まる。

「神の見えざる手」。

○市場価格は上がったたり下がったりするが、いずれは自然な形で
需給のバランスが取れ、自然価格に近づいてく。アダム・スミス

(イギリス経済学者 国富論 1723~1790)

○あらゆる商品の価格はその商品に含まれた労働の量に比例する。

商品—貨幣—商品。

貨幣—商品—貨幣。 余剰価値＝資本家。

労働者は商品でなく、労働そのものを資本家に売る。会社の誕生。資本家は労働を安く買ってその労働によって生れた価値を高く売る→私腹を肥やす。

—資本家の存在を認めるべきでない—

会社をすべて国有化して一部の誰かが得するシステムを無くす。

カール・マルクス
(ドイツ思想家・経済学者 1818～1883)

○生産性に注目。

労働の量だけに注目し生産性を無視するのは間違っている。

資本主義経済は成功すればする程、終焉に近づいていく。

大企業の出現→市場経済を支配→市場価格の調整。

大企業の官僚化→安定という名の停滞から社会が社会主義的になっていく労働意欲欠如。

生産性向上への意欲喪失→資本主義の崩壊。

創造的破壊＝時代を一変させるイノベーションが資本主義には必要。

ヨゼフ・シュン・ペーター
(オーストリア生 ハーバード大教授経済学者 1883～1950)

○「政府は積極的に市場介入すべき」だ。

不況時は民間に任せているだけでは経済は好転しない。

公共事業で需要を刺激しよう。

ジョン・メイナード・ケインズ
(イギリス ケンブリッジ大教授 経済学者 1883～1946)

○ケインズの公共事業で縦横を刺激するという政策は短期的効果しかない。

1. まず自分でなんとかする。
2. 民間の自由に任せ一部の人が得するシステムをなくす。
3. あらゆる資源をもっと有効なところに投下する。

フリードリヒ・ハイエク (1889~1992)

- ①低成長と高貯蓄率で資本/所得比が増加する。
- ②資本収益率はさほど下がらず、資本所得が拡大。
- ③資本所得は極めて偏在するため、格差が拡大する。

(世界の成長率は低下し、資本収益率は成長率を常に上回り、
所得の格差が増大する。) ピケティ (フランス経済学者 1971~)

世界経済は連帯化に向っています。企業の協業化と分業化はますますすすすみ、各国の経済的盛衰は即世界に伝播する時代となりました。金融と経済の相関関係は今後の推移によりますが、科学技術の進歩は世界のインフラを整備し、格差是正に貢献します。そして世界の識者は経済的格差を克服するため、21世紀末までには富の分配をはかり、貧富の差を埋め、無知や憎悪を和らげます。

世界は新しい時代に向かうのです。

⑪人間と科学=科学の発達を人間を救えるのか

- 科学技術とは自然の成り立ちを解明し、人間にとって利便性があるという発想からスタートしている。

(発言者不明)

- 貧乏を救うのは新しい技術だけだと思います。
友愛精神だけでは貧困をなくすことはできない。

カレルギー

○科学技術の成果は時間と労力を省いたこと。

科学技術とはプロセスをできるだけ少なくして結果を大きく獲得しようとすること。

今道友信（哲学者 1922～2012）

○人類が推し進めてきた科学技術の発展が生態系を壊しているとしたら、それは実に愚かしい行為であり、いずれは痛い目に遭う。

レイチェル・カーソン（前出）

○技術の進歩によって地球は毎日縮小しつつある。

カレルギー

○寛容の精神を共通目標に。

科学技術文明は既に爛熟期に入っていて秩序よりもカオス（混乱）に向うベクトル（量・速度）が強まっている。

人間だけが過剰殺戮する動物。

人間は同族を大量に無差別に殺すことができる。

どんな宗教にも、他者の生存を許すという原理がある筈です。

この原理（寛容の精神）こそ人類共通の目標にしなければならない。人間は自ら自滅のサインを知るまで限りない欲望を自制できない。

人間の欲望は限りない。自らの利便のため、あらゆる科学技術を駆使する。

科学技術は人間の究極の幸せに貢献するのか。インフラ（電気、水道、ガス、通信、道路）を整備し利便向上の為の自然汚染＝地球上の自然破壊は確実に進んでいる。

村上陽一郎（東大教授 2001-11-16 朝日）

○究極の科学は人間を解明すること。

宇宙を解明することや人類を永遠に存続させること。

そしてロボット（人間同等）の開発をすることではない。

1. 人間の死期が判ること。

2. 人間が満足に死ぬること。

3. 人間と人間が共存共生できること。

（仲良く平和に過ごせること）

（発言者不明）

死の時期が判れば人間は変わります。科学の進歩は人間を幸せにするか。ゲノム編集により動植物は進化するか。人間の脳に作用があるか。原爆や公害で健康はどうなるか。科学文明の発達はピークを過ぎると人類の敵となるのでしょうか。

カレルギーは科学技術の発達が経済を発展させ、格差を是正すると説きましたが、人間の幸せに貢献する科学技術と反対の科学技術の分岐点は何か。我々はしっかり見極めねばなりません。

⑫人間と AI（人工知能）

○コンピューティングの未来はAIがどこまで進化するかにかかっている。

エリック・シュミット（グーグル会長）

○コンピューターが人間並みの知性を持つ世界。

「シンギュラリティ」が2045年に訪れる。

イレ・カーツ・ワイル（アメリカ未来予測者）

○人間のほうが技術の部品と化し、ただ酷使される。

本田 元（日本哲学者）

○十数年後にはAIは高度に発達し、人類にとって心配の種にな

るだろう。心配ないと思っている人たちを理解できない。

ビル・ゲイツ（アメリカ マイクロソフト創業者）
『アエラ No26』

○AIには細心の注意を払う必要がある。核兵器よりも危険をは
らむ可能性がある。

イーロン・マスク（アメリカ テラスモーターCEO）
『アエラ No26』

○AIは100年以内に人間を超える。

完全なAIを開発できたら、それは人類を終焉させることになる
かも知れない。

スティーブ・ホーキング（アメリカ宇宙物理学者）
『アエラ No26』

○人を凌駕する知性を持つ機械と競争し、人類が生き残るのは
困難だ。

クライブ・シンクレア（アメリカ発明家）
『アエラ No26』

AIの発達により人類は変化するのか全くわかりませんが、AIは技
術の積み重ねですので人間の能力（人格を含めて）を上回る全知全
能のAIが開発されるかも知れません。

窮極のAIは人間対人間、人間対自然の共生を維持する為、人間をリ
ードする。そんな時代が来るのでしょうか。

また全く逆のAIもあるのでしょうか。

⑬究極の人間像

○心の欲するところに従って矩をこえず。

（悟りの境地）

孔子（中国 BC551～479 戦国時代）

○災難にあう時には災難にあうが良く候。

死ぬ時節には死ぬが良く候。

これは是、災難を逃るる妙法にて候（自然体、達観）。

良寛（1758～1831 江戸時代）

○汚い臭い乞食を抱きしめるのは何故ですか？

乞食ではない。イエス・キリストを抱きしめている。

釈迦は自分の一番嫌いな姿で現われる。

マザー・テレサ

（アルバニア系カトリック修道女 1910～1997）

ノーベル平和賞（1979）

○真の幸福とは自分の欲求を満たすことを通して得られるものでなく、価値ある目的に忠誠を尽くすことを通じて得られるものなのだ。幸福とは、それ自身が目的ではなく、何かを成し遂げる為の手段であるべきものなのだ。

お互いを助け合い、この世を明るくしようと努めればそれだけ私たちはより幸せになるはずなのである。

ヘレン・ケラー

（アメリカの教育家・社会福祉事業家 1880～1968）

○報怨以德 徳とは愛。

老子（中国春秋時代の思想家）

「人間は神と悪魔の間を浮遊する」パスカルの言葉（前出）ですが究極の人間像は愛（神、真理）である。そう信じます。

⑭人間と自然の共生（地球は人間の為に変われない）

人間の生活を脅かす最近の世界各地の異常気象は、人間のエゴによる自然破壊の実証です。

地球上に生存する全ての生物にも命があるのです。人間は他の生物とともに生かされていることを承知しながら、何故自己本位になるのでしょうか。

人口増加と利便性の追求はやがて、人間生存の限界に達するものと想われます。人間はこの事実を知悉しています。しかし自らの欲望を制御しなければならず、総論としては理解しているものの抑制という問題については完全実行できないのです。人間はこの矛盾を解決しない限り破滅への道を歩むものと認識しています。

しかし、真の危機に直面しないと行動に移せないのです。

人間のエゴはいつ終わりになるのでしょうか。21世紀は人間と人間、人間と自然の共生の時代にすべきですが、有史以来人間の本質は変わらず、人間は自然だ破壊をくり返し現在に至りました。剥き出しのエゴは人間だけの繁栄を目指し、共存共生（環境・生態系保護）を許しません。

しかし、地球は人間の増大する欲望に耐えられない時代に入りつつあります。

地球は人間の為にその許容量を変えられません。人間が変らなければ人間の生命の継続は不可能です。今こそ人間は地球上の全生物永続の為、共存共生を目標に真摯に行動すべき時です。

人間と人間、そして人間と自然との共生を主唱する多くの仲間の出現こそ問題解決の端緒です。

⑮世界の政治家と責任

政治家は紳士、淑女であり、世界の10年後20年後は勿論、21世紀を視野に現在を考えるべきです

平和な世界や自然との共生は、政治家の責任ですが、人間対人間の争いは、格差や差別そして宗教と民族の問題を含め混乱の時代に入ったのでしょうか。

人間の争いは人間の欲望を相互に制御しない限り、いずれ人間自身の危機になることを、世界の人々は理解しています。

世界の平和と自然との共存、そして軍縮は世界の課題であり、今こそ各国は自らの責任において連帯し、問題解決にあたるべき時です。

科学の発達は、社会構造を大きく変え、人間の感情や欲望にも変化の兆しが現われ、新しい世界の到来を予測させます。

世界の政治家は最高の紳士、淑女として最大の難関である集団の利己を脱し、勇気をもって人間の深層にある愛を原点とした相互尊重をすすめ、尊敬される国家の構築のため長期ビジョンを確立し、それに向って行動すべき時ではないでしょうか。

政治家には人々に夢や希望、そして喜びや幸せを与え、世界の平和に寄与する責任と義務があります。

国家と国家の協調は世界の政治家相互の理解と信頼の延長線上にあります。

⑩人間と他との共生

(社会を友愛化すること)

欲望とは苦なり (法句経) の言葉に象徴されますが、満足は一瞬、そして欲望は無限です。欲望は自らのブレーキを踏まない限り止まる所を知りません。

組織はますます肥大化する (パーキンソンの法則)、そしてあらゆる

る組織は無能化する（ピーターの法則）の学説通り、次から次へとエスカレートする集団の欲望(軍拡を含む)は、やがて自らの生存を不安と混乱に陥れ、苦しみや争いとなり、紛争や戦争に発展し、破滅への道に進むのです。

21世紀は覇権の時代ではありません。

人間は天性の愛に回帰し、以下について真摯に対処すべきです。

1. 人間の究極は理でなく感情です。

欲望とは感情の問題でもあります。

感情の激突は個人では諍いに、集団(国家)では戦争となります。

国家感情(NATIONALISM)の制御如何が急務です。

2. 人間と人間、人間と自然の尊厳を尊重し、経済的格差と差別(人種、国家、民族、宗教、言語)を是正する。

人間の欲望 (五欲) 食欲 財欲 色欲 名誉欲 睡眠欲

○欲多ければ身を傷い

財多ければ身を煩う

弘法大師 (774~835年)

○足るを知らざる者は富ても貧し

人は足るを知らざるを苦しむ

老子 (中国 春秋戦国時代)

○求めるところあれば皆苦なり

求めるところ無くんば即樂し

発言者不明 (中国古典)

10. 生命 生きる

わかっているようでわからない。

生は決まっているのに死の時期は不明です。

人間の生きる意味、生きる目的は何か。

人間も動物も自然と共にある、ただそれだけのことなのでしょうか。

○人は教育によってだけ人間になることができる。

カント

○教育とは学校で習ったすべてを忘れたあとに残るもの。

2013.10.10 天声人語

○世界では小学校に通えない子が約 5,700 万人にのぼる。

2015.5.5 天声人語

○教養とは全てを忘れたときに残るものであり、すべてを習った後にでもなお足りないもの。

エドゥアール・エリオ（フランス政治家 1872～1957）



友愛創立60周年記念式典 2013年5月19日 鳩山会館にて

①平均年齢（生存年齢）（2014年）

男		女	
香港	80.87	日本	86.81
アイスランド	80.8	香港	86.57
スイス	80.5	スペイン	85.13
日本	80.21	フランス	85.00
シンガポール	80.2	スイス	84.70
中国	72.38	中国	77.37
南ア	53.2	南ア	57.2

1947年の日本の平均年齢 男/50.06 女/53.96

平均寿命は医学と経済の発展による生活改善で伸びます。しかし
脳の発達には肉体の限界と同様、限界があります。

人間は人間の限界を超えられませんが、社会は高齢化とともに友
愛化し、相互理解と相互扶助は地域社会で必須となります。

②国民一人当りの所得（2013年） 世界保健統計 2015年版

順位	国	\$	円
1.	カタール	123,860	14,739,340
2.	シンガポール	76,850	9,145,150
3.	ノルウェー	66,520	7,915,880
4.	スイス	56,580	6,733,020
5.	アメリカ	53,960	6,421,240
6.	サウジアラビア	53,780	6,399,820
7.	スウェーデン	44,760	5,326,440
8.	ドイツ	44,540	5,300,260
9.	デンマーク	44,460	5,290,740
10.	オーストリア	43,840	5,216,960
17.	日本	37,630	4,477,970
21.	大韓民国（韓国）	33,440	3,979,360
71.	中華人民共和国（中国）	11,850	1,410,150
169.	中央アフリカ共和国	600	71,400

③肉体の限界 (Wikipedia)

人間は自らの限界を意識しています。

寿命と肉体の限界を知れば自然との共生は勿論、自然との共存こそ人間の責任と使命であると自覚するのです。しかし、何故人間は行動に移せないのでしょうか。

	男	女
100メートル	9.37 秒	10.15 秒
マラソン	1 時間 48 分 25 秒	2 時間 33 秒
科学的に推計した肉体の限界。人間はこれ以上記録を伸ばせない。 ちなみに現在の記録は、		
100メートル	9.58 秒	10.49 秒
	ウサインボルト (ジャマイカ)	フローレンスジョイナー (アメリカ)
マラソン	2 時間 2 分 57 秒	
	デニスブルトキメット (ケニア)	ポーララドクリフ (イギリス)

④世界の宗教勢力 (2008 年国連発表)

キリスト教	33.4%
イスラム教	21.2%
ヒンズー教	13.5%
仏教	5.7%

2050 年イスラム教は世界人口の 1/3 に達する (国連予測)
(2013 年 10 月 22 日号エコノミスト)

⑤世界の最貧困層（この25年間で半減したとはいえ今なお）

（ロータリークラブ第2580地区ガバナー通信2015年10月号）

1. 1日1.25ドル未満で生活している人	10億人
2. 銀行口座のない人	25億人
3. 電気のない生活をしている人	14億人

⑥2014年世界の軍事費

（スウェーデンストックホルム国際平和研究所発表）

	軍事費(億ドル)	2005年比
1. アメリカ	6,100	(-0.4)
2. 中国	2,100	(+167)
3. ロシア（推計）	845	(+97)
4. サウジアラビア	808	(+112)
5. フランス	623	(-3.2)
6. イギリス	605	(-5.5)
7. インド	500	(+39)
8. ドイツ	465	(-0.8)
9. 日本	458	(-0.8)
10. 韓国	367	(+34)
世界全体の軍事費	17,760億ドル（213兆円）	

⑦核保有国一覧 2009年(以後不明) wikipedia

	戦略弾頭数	核弾頭数合計
アメリカ	2,126	9,400
ロシア	2,668	13,000
イギリス	160	185
フランス	300	300
中華人民共和国 (中国)	180	240
インド	60	60~80
パキスタン	60	70~80
北朝鮮	10以下	10以下
イスラエル	80	80

在の核(原爆、水爆)は広島、長崎の数十倍の威力があると伝聞しております。



ウィーンにある国連機関 CTBTO (核実験禁止条約機構) を訪問
ブルキナファソ出身のゼルボ事務局長より話を伺う
(姉妹団体 OJAB との友好 50 周年記念訪問の際 2015 年 6 月)

⑧世界の人口 (2014年外務省人口白書)

1.	中華人民共和国 (中国)	13億 9,300万人
2.	インド	12億 6,700万人
3.	アメリカ	3億 2,200万人
4.	インドネシア	2億 5,200万人
5.	ブラジル	2億 200万人
6.	パキスタン	1億 8,500万人
7.	ナイジェリア	1億 7,800万人
8.	バングラデッシュ	1億 5,800万人
9.	ロシア	1億 4,200万人
10.	日本	1億 2,700万人

国連予測値 2015年 72億人 2050年 95億人 (Wikipedia)

世界の人口は増大し続けるのでしょうか。それとも減少に向うのでしょうか。万一人口減に転ずるとすれば世界の価値観は一変し、新しい時代の当来となりましょう。

また、世界の人口が100億人(地球の許容量?)を突破すると、人間と自然の共存は勿論、人間自身の生存も危機となり、究極の大量殺戮と混乱の時代になるのかも知れません。しかし、科学の発達(ゲノム編集等々)により危機は回避されるのでしょうか。

人間は自滅してしまう日が来るように思う。(ファーブル)

人間は神と悪魔の間を浮遊する。(パスカル)

人間は常に全滅の危機にある。(カーゾン)

人口増は利己を助長します。人間は利己を制し愛に目覚めない限り衝突し自滅への道を辿るのでしょうか。

人間が幸せに平和に生きることは夢なのでしょうか。

世界の人口は地球の許容量を超えると自然淘汰に向い、21世紀内に減少に転ずるのでしょうか。

21世紀末までに世界は力から愛への転換期(利己抑制)となり、人間の叡知は必ず友愛で未来をひらくと確信します。

私は人間を信じます。

11. メモ — 世界平和の問題点

友愛概論を整理している折、気付きましたことをその都度メモし、私の考え方と合わせ纏めてみました。重複する文言もありますが、ご参考までに記しました。 2016.6.16

I. 人間を考える

II. 人間と自然を考える

III. 人間と世界を考える (厳しい世界の現実)

IV. 世界平和実現の道

I. 人間を考える

1. 人間とは

神、悪魔、愛、憎、怒、利他、利己、信善美等、すべてを内蔵し、情と理のバランス如何により、様々に変化しながら人生という舞台で自らを演ずる動物。

2. 人間の生きる目的は何か

人間は対するものにより常に変化する
人間共通の生きる目的はない
人間生存の目的は不明

3. 人間の性

自らの行為を正当化する性質がある

自己本位 自己防衛

人間は本能的に利己か。

人間の愛は欲望というベールに包まれ情態により様々に変化する

4. 人間は変化できるか

人間は人種、民族、宗教、思想等の対立する利害を克服できるか。

人間は自然に対し温暖化や汚染の防止、生態系保護を実現できるか。

人間は変化する諸事象に対し対応できるか。

(人間は自らの欲望達成のためにだけ変化する)

5. 人間は自滅か存続かの岐路に立ち存続を選択できるか

生命の限界を知り、愛を顕在化できるか

自らの欲望を制御できるか

司の論理を超克できるか

人間の命は伸長するが人間の脳は自己完成を目指し進化できるか

6. 人間の交流を推進する

修身、齐家、治国、平天下は夢か

まず身近なところからの相互理解を推進する

Ⅱ．人間と自然を考える

1．地球破壊の現実

アメリカ西部での山林火災

ロシアでの大量のバッタ発生

中近東での熱波

世界各地での大洪水

世界の海はプラスチックの破片で汚染が深刻化しつつある

以上の件から、人は何を想像するか。

人間の欲望は無限

地球＝現在の1年の変化は過去100年の変化に相当する

という学説がある。

人間のエゴの為、地球は日々破壊されている。

自然資源の枯渇 — 人間は地球から吸取れるものは全て吸い尽す。

2．温暖化

(『こうして世界は終る』ナオミ・オレスケス／エリック・M・コンウェイ著)

世界の平均気温が4℃上昇すると世界は熱波と旱魃、虫の大量発生となり、病気が爆発的に拡がる。

動植物の大半が死滅する。

2200年から2300年に南極と北極の氷が解け、海面は時間とともに上昇し、最終8mに達する。

オランダやバングラディッシュの大半は海面下になる。

世界の人口の10分の1は大移動する。

3. 地球上の全生物に命がある

人間は人間だけでは生きられない。

人間にとって地球上のすべての動植物、そして現存する

自然は必要不可欠である。

そして自然はそれぞれ存在する目的を持っている。

4. 地球は人間の為には在るのではない。

そして人間の為には変れない。

人間は自然によって生かされている。

人間のエゴにより自然を破壊することは、人間の自滅に通ずる。

人間には自然と共存する責任がある。

人類の膨張は自然破壊を促進する。

5. 人間のエゴ

象 (象牙・サイの角・密猟により絶滅の危機) 2015年8月12日読売新聞

タンザニア	アフリカ象		
2009年	109,051頭		
2014年	43,330頭	60%減少	
モザンビーク	アフリカ象		
2009年	20,000頭以上		
2014年	10,300頭	50%減少	

犀

南アフリカ			
2014年	1,215頭		

6. 人間は生態系と自然環境保護のため、直ぐ行動を 起さなければならない。

自然破壊がこのまま進めば300年後殆どの生物は死滅するという学説がある。

人間は地球破壊を予知している。しかし自らを律することが出来ない。

- 人間はひとりになると利口で分別ありげだが
集団になるとたちまち馬鹿が出てくる

フリードリッヒ・シラー

7. 地球（自然）保護活動の推進

人間は自然保護の問題を真摯に考え行動に移せるか。

- 目の前の幸福を棄て、遠い未来の人類の幸福を願う程の
叡知を神は人類に与えてくれない。

市川森一

Ⅲ. 人間と世界を考える (厳しい世界の現実)

A. 世界の努力目標

1. 経済的格差は是正されるか

人間は経済的不満を解消すると思考が変わる

2. 差別の解消は可能か

人種、民族、宗教、文化、言語、職業により人間を差別してはならない

人間は平等、公平を望む

B.世界で最も緊急な課題は

1. 世界は国益で動く

国益至上主義（強い者が勝つ）の目的は何か

国家の発展は無限という思考の矛盾

世界のリーダーは戦争か平和かの選択を常に意識しているか

自由の陥穽＝政治的自由は経済的自由を希求し市場原理主義を導入し失敗した。

これからの経済や金融はどうあるべきか。

新しい経済秩序とは？

市場原理主義とは、市場での自由な競争に任せておけば価格、生産ともに適切に調整され、ひいては生活全体も向上するという考え方。政府による市場への介入や規制などの極小化を主張した。

自由市場、新自由主義、マネタリズム、レーガンノミクス、サーチャージズムがリーマンショックを惹起した。

2. 世界で最優先するのは法でなく国力

国力強化の目的は何か。

国力とは人為的國家の構築であり、人間の生命同様その成長には限界がある。

覇権の究極は帝国主義か。

国力とは武力（核）、経済力、金融力、人口。

国家も国力（覇権）により内外の法（外交、軍事等の条約を含め）解釈は自国有利に変化する。

核不拡散と軍縮は可能か。

3. 人類は確実に第三次世界大戦に向かって進んでいる。 破滅的な原子戦争と人類史上最大の破局へ向 て進んでいる。 カレルギー

現在の原水爆は広島、長崎の数十倍の威力がある。

○米国、中国、ソ連、EUは第三次世界大戦をいかにして阻止するか
という問題を討議する会議と世界連邦を設立するため、進んで提
唱国とならねばならない。 カレルギー(1969年来日の折)

IV. 世界平和実現の道

人間の生命と国家覇権の限界を悟る

1. 自国の利益最優先からの転換は可能か

覇権の限界を知る

異体制間の調和と和諧、そして国家間の連帯、共同体思考を具現化
する。

人間交流の促進

経済的格差と差別の是正

EU……1000年以上もの間、ドイツとフランスは競争相手でかつ
敵であった。しかしアデナウアーとドゴールという2人
の偉大な政治家は両国を誠実な友好国に変えた。

カレルギー

世界平和の第一ステップとして、東アジア平和のために日本と中
国はドイツとフランスの例にならい異体制間の調和と和諧を目指
し、積極的に外交を進めねばなりません。中国の富国、民主、文明、
和諧や愛国、敬業、誠信、友善、そして自由、平等、公正、法治とい
うスローガンに新しい時代の到来を予感します。

2. 相互理解の推進

有史以来人間の生命と国家の覇権は永遠でないことを知る。

交通、通信、情報の発達是人々に親近感を与え相互理解のチャンス
を拡げる。

人間交流を積極的に推進する。

政治、経済の交流はもとより特に下記二点に注力し、国民全体の相
互理解を深める。

1. 少年、青年、婦人の交流
2. 文化、芸術、スポーツ、観光、趣味等、市民の交流

3. 人間尊重の限界と課題

真の人間尊重は、自由、平等、友愛が鼎立する友愛社会でなければ
実現しない。

友愛社会実現までは、どんな国家や社会でも自由や平等、そして人
間尊重（人権擁護）には限界がある。

経済的格差や差別についても世界各国それぞれの国情により違い
があり、これから解決すべき課題である。

4. 世界平和実現のために

日本から世界に友愛思想を発信し、友愛革命を推進する。

時代は必ず変化する

『ハチドリのひとしずく』がやがて「星火燎原」(『後漢書』)へ
人間の叡知に期待する

12. 日本友愛協会の創設者

鳩山 一郎 日本で最初に友愛思想を提唱
友愛運動を主導した政治家
第35代内閣総理大臣

- 1883年(明治16年)1月1日 東京にて出生
弁護士 衆議院議員当選15回
内閣書記官長 文部大臣
- 1953年(昭和28年)1月 『自由と人生』出版
- 1953年(昭和28年)4月29日 友愛青年同志会結成 会長就任
- 1954年(昭和29年)12月10日 第35代内閣総理大臣 就任
- 1955年(昭和30年)11月15日 自由民主党 初代総裁
(保守大合同 55年体制確立)
- 1956年(昭和31年)10月19日 日ソ国交回復
- 1956年(昭和31年)12月18日 日本国連加盟
- 1956年(昭和31年)12月23日 内閣総理大臣 辞任
- 1959年(昭和34年)3月7日 逝去 76歳



1955年4月
衆議院総理執務室にて

青山 光子 クーデンホフ・カレルギーの母

- 1864年（明治7年）7月16日 東京青山にて出生
- 1881年（明治24年） オーストリア大使館
代理公使ハイリッヒ・クーデン
ホフ・カレルギー伯爵と結婚
- 1884年（明治27年）11月16日 リヒャルト・クーデンホフ・カレ
ルギー出生
- 1886年（明治29年） 夫とともにオーストリア帰国
- 1906年（明治39年）5月14日 夫ハイリッヒ伯爵 逝去 47歳
- 1941年（昭和16年）8月28日 オーストリア ウィーンにて逝去
76歳

オーストリア代理公使リヒャルト・クーデンホフ・カレルギー伯爵に見初められ明治24年結婚。日本人として初めて海外の名家に嫁いだ女性。オーストリア帰国を前にして、昭憲皇太后から拝謁を仰せつけられ令旨を賜った。

また、クーデンホフ・カレルギーが汎ヨーロッパ運動を開始後「EECの母」という名称をヨーロッパ各国から与えられた。

EEC=European Economic Community

（令旨=皇太子、三宮、親王、王、女院の命令を伝える文書）

クーデンホフ・カレルギー

友愛思想・友愛革命・友愛社会を提唱
汎ヨーロッパ運動主催者

『THE TOTALITARIAN STATE AGAINST MAN』著者

(『自由と人生』原書)

- 1884年(明治27年)11月16日 東京にて出生 光子の次男
幼名 青山栄次郎
- 1886年(明治29年) オーストリア帰国
- 1923年(大正12年)10月 『汎ヨーロッパ』出版 29歳
*この著書により彼はヨーロッパで汎ヨーロッパ運動を開始したが、この考えは当時のフランスのシューマン首相に認められEECの原点となりました。EECはその後のEUに発展。
- 1935年(昭和10年) 『Totalitarian State Against Man』
(全体主義国家対人間)出版
日本版『自由と人生』鳩山一郎 訳
昭和28年(1953)1月1日出版
その他著書多数
- 1950年(昭和25年) シャルル・ヌーニュ賞 受賞
- 1951年(昭和26年) ノーベル平和賞候補者となる
- 1967年(昭和41年)10月26日～11月8日 来日
*友愛青年同志会・NHK・鹿島平和財団の招請
*天皇、皇后に謁見
* 第一回鹿島財団平和賞受賞
- 1970年(昭和45年)10月6日～28日 来日
- 1972年(昭和47年)7月29日 逝去 87歳

13. 日本友愛協会の経緯

1. 友愛青年同志会 1953年(昭和28年)4月29日 結成
初代会長 鳩山 一郎 1953年～1959年(昭和28年～34年)
二代会長 鳩山 薫 1959年～1974年(昭和34年～49年)
三代会長 鳩山 威一郎 1974年～1993年(昭和49年～平成5年)
*1973年(昭和48年) 友愛青年連盟と称号変更
四代会長 鳩山 邦夫 1993年～1998年(平成5年～10年)
*1998年(平成10年) 財団法人日本友愛青年協会に併合

2. 友愛青年連盟
1973年(昭和48年)5月8日 友愛青年同志会を称号変更
1998年(平成10年)3月 財団法人日本友愛青年協会に併合

3. 財団法人日本友愛青年協会 1959年(昭和34年)6月1日 設立認可
初代理事長 鳩山 薫 1959年～1974年(昭和34年～49年)
二代理事長 鳩山 威一 1974年～1993年(昭和49年～平成5年)
三代理事長 鳩山 安子 1993年～2005年(平成5年～17年)
四代理事長 鳩山 由紀夫 2005年～2011年(平成17年～23年)
*2011年(平成23年) 一般財団に移行

4. 一般財団法人日本友愛協会 2011年(平成23年)3月22日 設立認可
初代理事長 鳩山 邦夫 2011年～2013年(平成23年～25年)
二代理事長 鳩山 由紀夫 2013年～(平成25年～)
評議員長 井上 和子 2011年～(平成23年～)

14. 友愛運動の歩み (1953~2016年6月16日)

移動文化映画班		480回
歯科診療班		2回
福祉施設訪問		19回
文化講演会		144回
全国大会		21回
記念式典(周年)		6回
英語弁論大会		7回
日本語弁論大会		9回
友愛クラブ		531回
国際交流	派遣	オーストリア 31回
		マレーシア 12回
		東南アジア 29回
		中国 7回
青年海外派遣		48回
	受入	19回
友愛ユースキャンプ		29回
中国植林活動(植林面積3,400ha・植林本数508万本)		27回
リート(ドイツ歌曲)コンクール		26回
機関紙『友愛』		541号
機関誌『ゆうあい』		88号
軽井沢友愛山荘(1954年開設 現在に至る)		
友愛山荘開設実績	(軽井沢・尾道・北海道・福島・背振・高松・岡山)	7か所
2014年より開始の活動		
ミャンマー農業研修生受入れ事業		
ベトナム福祉施設車椅子寄贈活動		

友愛国際写真コンクール

友愛講演会・友愛講演会感想文コンテスト

友愛出身議員（2015年）

国会 ……現職7名、累計47名 うち4名の首相を輩出
都道府県関係……累計92名超

他 記念講演会、全国学生会議、チャリティー映画会、
友愛キャラバン隊、各種フォーラム、支部活動、ボランティア活動、
レクリエーション活動、山荘活動等々
国内外関係団体会議、友愛婦人会活動、
共催活動（MRA、核禁会議、中青連、その他多数）



日本友愛協会は2000年より中国での植林活動を続けている
「樹木の成長は日中友好成長の証である」を合言葉に！
（2010年3月福建省廈門市翔安区にて）

15. 資料「友愛革命」 …… 『自由と人生』より

友愛革命

クーデンホフ・カレルギ 著 1953年(昭和28年)1月1日発行

鳩山 一郎 訳 発行所 乾元社

『自由と人生』の原文

原名 Totalitarian State Against Man(1938年刊)

全体主義国家を克服するに必要な第一歩は、ボルシェヴィズムの全敗と、階級闘争の破産という形で開けて来た。

此の事実は未だ大衆の意識に浸透してはいない。然れども真理は自然に其の道を拓くものだ。其の進行は、虚構や宣伝によつて妨碍することは出来ても、結局それを停止することは出来ない。

「資本主義の労働者が、遙かに高い生活水準と多大の自由と安全とを楽しみつゝあること、国家資本主義が到底私営的資本主義と競争し得ぬこと、ロシア労働者の樂園についてマルクス主義の実験が、全く失敗に帰してしまつたこと、等を、如何なる単純な共産主義者でも皆認識してしまうまで、ソヴェエト国家は継続し得るだろう」ということは、ロシア以外の全人類にとつて、極めて興味深き事実である。

資本主義十字軍によるソヴェエト政体の打倒は、ボルシェヴィズム反対者にとつて醫やすべからざるの災害となるであろう。何となれば、それは幾世紀の後までも、マルクス主義者をして次のように語らしむるに相違ないからである。曰く、ボルシェヴィズムは特に資本主義を超越さんとする瀬戸際に資本主義のために絞殺されてしまつたと。そして其の結果として、マルクス主義の希望と脅迫とはソヴェエト国とともに死滅せずして、将来までも生き残ることであろう。

「ボルシェヴィズムは恐らく外力の爲めに滅ぼさるゝことはなく、寧ろ文明社会に対する一の鑑戒として其の生存を続け、結局それは生存に倦んで自殺を遂げるか、それともまた内部から崩壊を来すか、或は自発的に私営經濟に変貌してしまふ迄、残存することであろう。其の時期が到来する迄は、人類社会はボルシェヴィズムの道德的經濟的狀態を、資本主義諸国のそれと比較するの機会をもつことであろう。

ファシズム誕生が、ボルシェヴィズムの誕生に続いたように、ファシズムの最後が、ボルシェヴィズムの最後に続いて到来するであろう。而してそれは正しく其の使命を完遂するであろう。全体主義国家の黎明は消えた、そしてやはり全体主義的人間の曙も終るのである。」

階級闘争と国家的全体主義とを撤廢する第二の段階は、階級的憎惡心の払拭である。

貧者の富者に対する怨恨は、貧窮続く限り存在する。人間が飢餓に瀕することを余儀なくされる以上、満腹する迄食べられる人々に対して憎惡の感情を抱くであろうし、また寒気に悩まねばならぬ境遇にあるかぎり、毛皮に包まり暖房に温まる人々を嫉視するであろうし、また其の頭上を蔽う屋根さえもない身分にある間は、住居や寢台をもつ人々を恨むに相違ないのである。

以上の論理は極めて簡単なことで、飽く迄食べている人々が平和を説き、食えるか食えないかの階級闘争を停止せよ、等というのは、無意義にして且つ無恥の至りである。

階級的憎惡心の第二の原因は、奴隸制度である。巨万の人々が、其の家族を飢餓より衛るために、廻轉する調²革の傍に毎日八時間を過ごして、何回とも測り知られぬほど同一の作業を反復するというのは、明かに奴隸制度の近代的形式に他ならない。

飢えた者が満腹者を憎む如く、奴隸は奴隸使用者を憎み続ける。階級的憎悪心を造り出したのはマルクス主義ではない、寧ろ階級的憎悪心がマルクス主義を生み出したのだ。従つて階級的憎悪心を解消する唯一の方法としては一唯一つ、貧窮と奴隸制度との絶滅である。

貧窮奴隸制度に対する戦闘の武器は、マルクス主義に非ずして技術上の知識である。

近代的技術の始まる以前には、吾々の風土に於ては必然的に貧窮が存在した、というのは此の地方には、各人を満腹せしむべき十分の食糧もなければ、衆人を暖かに蔽うべき十分の布帛³もなく、また彼等を宿泊せしむべき十分の家屋もなかつたからである。

近代的技術の発達する以前には、吾人の生活や文明や経済が、是非とも人間の筋肉労働に頼らなければならなかつたので、奴隸制度は蓋し止むを得なかつたのだ。ローマの力が奴隸制度の上に依存していたのみでなく、アゼンスの自由もまた然りであつた。当時にあつては奴隸解放は文明の自殺であつたろう。

大量生産によつて貧窮を攻撃し、自然力を筋肉の力に代用することによつて奴隸制度を攻撃するの可能性を吾々に提供した、そもその始めは、実に技術上の進歩である。

技術上の発達によつて、欧羅巴とアメリカとは其の人口の要求するより以上の食糧を生産し、併せてまた多くの布帛、多くの器具、多くの家屋を製造せんとするの過程にある—而してこれは貧窮の絶滅を意味する。

前日には贅沢品であつた無数の物品が、今日は工業労働者によつて多量に消費されている。

—砂糖、石鹼、茶、珈琲、橘柑類、バナナ、⁴手巾、時計、⁵襟布、襟飾等、みな然りである。労働者の住居は日を追うてますます美しく、且

つ広くなりつゝある。欧羅巴、アメリカを通じて、其処には一人の餓えた人間もなく、露出した足や、凍えた耳指先等をもつ者や、衣服の不十分な者や、屋外に住む者などを、一人も見ないような時期の到来することは、最早遠い将来ではあるまいと思う。また各々の労働者の家族が、その小住宅や、その寝室や、ラヂオや、電話等を所有する時期も、必らず来ることと思う—現在の進歩の趨勢が、新なる世界戦争や世界革命等によつて阻止せられざる限りは。

此の進歩と並行して、奴隷制度の破壊が既に進行中である。現今既に蒸気、電気、発動機等が段々に筋肉労働に代りつゝある。発動機の使用のお蔭で、労働者は追々と力の調節者に変らんとしている。奴隷なる機械の軍隊が、奴隷なる人間の軍隊と交代しつゝある。物資はだんだんに多量に、だんだんに廉価に赴くのみならず、其の生産に時間や体力を消費することがますます減少している。

暫時の間、暗雲が此の発達を遮蔽していた。それは欧羅巴及びアメリカに於ける約二千万の人々が発動機の爲めに其の仕事場を追出されて、失業した爲めである。此の事実は現代の一汚点たるに相違ないけれども、畢竟一時的な現象で、政治が技術的発達の機会を捕捉する迄、一寸の間続いたゞけのものだ。幾多の国々では失業問題は既に克服されて居るし、他の国々では技術的進歩に伴う就業時間の短縮と云う方法によつて、漸次にそれが解決せられんとしている。過労に陥っている何百万人が、失業している人々に其の労働時間の幾分かを譲り渡す際に、悲惨は二重の形に於て征服さるるであろう—即ちそれは過労の悲惨と失業の悲惨とである。

社会問題が、資本主義と技術的進歩とによつて解決さるゝことが一般に確認せられた際に、革命なく、クーデターなく、大破滅なき不₆断の政治的発達に対する先決条件は、既に具備したのである。其の時期が一度到来すれば、「財産は盗賊の謂なり」と云う煽動的な標語は、

「財産は人間の権利なり」と云う、仏蘭西革命の題目に其の席を譲らざるを得なくなる。其時こそは現在の形式に於ける階級闘争が、初めて其の終熄を告げるのである。

傭者と被傭者との両階級が存在する限り、両者の区別は存在するだろう。被傭者は出来得る限り自己の為に、常に最も高率にして安定した利益の分配に与からんことを欲し、傭者は危険の時機に備うる為め、常に企業の準備金を強化し置かんとするに相違ない。然れどもこうした相違は、恰も工業と農業の対立と同じような工合に一革命の危険なしに一解決せらるゝであろう。

傭者、被傭者の相違は、現今のブルジョアジイとプロレタリアとの相違、若しくは富者と貧者との相違等と同様なものではないであろう。何となれば、大工や、靴屋や、仕立屋等で、其の業を助くる為めに職人を使用する者は皆傭主であるし、内閣諸大臣や、大使公使や、銀行重役や、工業会社の支配人等は、皆被傭者の部類に属するゆえである。一度工業労働者の生活が確保せられて、彼等が有給の手工業者或は役員となるに至れば、ブルジョアジイとプロレタリアトとの間の階級的相違は直ちに消滅し、それとともに階級的憎悪心もなくなるに相違ない。

既に若干の所有物があつて、少々づゝ貯蓄し得るだけの十分な収入を得る労働者は彼の少財産に執着すること、なお企業化が其の大資本を大切にすると選ぶところはないのである。前者が其の配当金や自転車に愛着するのは、後者が其の別荘や自動車に於けると同様である。

丁度田舎に於て、大農小農の間に、両者とも其の財産に執着する上から多少の嫉妬はあつても、階級闘争はないように、都市に於て、大小資本家の間の階級闘争は消滅することであろう。

蓋し世界は何物かを所有する人と、一物をも所有せぬ人とを、区別

することは出来ても、幾分かを所有する人と、沢山所有する人を分けることは難かしいからである。元来、幸福が常に収入と正比例する如く信ずるのは、誤解の甚しきものである。かくの如きことは、収入の極めて低度なる場合のみに限り、少しく高い程度には存せぬのである。概して中産の人は富豪よりも幸福なのである。既に大衆の悲惨困窮が克服された後と雖も、主義として共産的平等を絶叫して止まぬような畸人は、定めし存在することであろう、彼等は大型の書籍と小型の書籍とが同一の書架に並列されて居るのを、忍ぶことが出来ない⁹のである。然れども大衆はこうした変物を相手にすることを止めるに相違ない。満腹して居る人々は、革命的でないのが通例なのである。

現代の三大階級は、階級戦に於て相互に其の敵を殲滅せんとする代りに、内政に於ては困窮に対し、外政に於ては戦争を絶滅すべく、協同の戦線を張るであろう。彼等は取引高を増加し、一般生活水準を向上せしむるために、関税や租税を引下げ、経済的努力の分野を拡大せんと努力することであろう。

特にまた彼等は、個人的自由、人間的権利、人間的威厳等の大目的の為に、相協同して戦うことだろう。蓋しブルジョアジイも農民も労働者も、野心ある政治家が侵略的な戦争を起したり。隣邦と事端¹⁰を構えたりすることを防止するのに、共通の利益を生ずるからである。彼等はまた何人も拷問されたり、裁判もなしに強制労働所に打込まれたり、或は政治上宗教上の信仰の為に処刑されたりすることのないのを希望することに於て、互に一致している。彼等は其の代表者及び受託者が、租税の決定や予算の編成に決定権を有すること、司法官が厳正であり、官吏が清廉であること、政府がその人民の利益を度外視せぬこと、法律を遵守する人が、法律の保護を受くべきこと、国

家が個人と其の自由との保護者にして、その死刑執行人でないこと、等を確定することに至大の関心を寄せるのである。こうした利害の一致せる¹¹一大聚団の爲めに、階級間の障壁は漸次に崩壊することであろう。清潔の普及が、洗われた人と洗われざる人との間になお存在している高い社会的障壁を撤去することは、恰かも日本人が各階級を通じて為すが如く、凡ての人々が日日沐浴するようになれば、直ちに実現せらるゝことであろう。

極東亜細亜は、¹²神儀を以て最高道徳の一となし、人間交際上の必要具となせる点に於て、世界に向つて一の儀表を提供したものと云える。凡ての人々がますます礼讓的たらんとし、其の同業に対し、長上に対し、目下に対し、仲間に対して、堪忍強く振舞うに至れば、新なる階級的障壁は崩解することであろう。

其の近代的形式を以て、何百万住民の牢獄のように巖然と構えている大都市が、田園都市に変貌して、各々の労働者が其の土地を耕作し、更にまた凡らゆる人々が交通上の新手段に依つて、即ちラジオや、電話や、デレヴキジョン等を以て、自由に都市との接触を保ち得るに至らば、都市と田舎との障壁もまた同様に消滅することゝ信ずる。

ボルシェヴキズムの全敗と、工業技術の勝利とに因る階級戦の終熄は、自由の爲めの仏蘭西革命と、平等の爲めのロシア革命とに次いで、友愛の爲めの大革命を形成する。其の目的は、自由、寛大、諒解、及び人道等に於ける協同一致であつて一個人主義を基礎とする社会主義であり、其の隣人の個性を尊重することを以て、人格の觀念に対する王冠となせるものに他ならない。

友愛の爲めの革命というのは、歴史上たゞ二つを数えるだけだ。即ち仏教と基督教とである。蓋し此の二つの宗教にあつては、底辺は個人主義であつて、頂点は社会主義だ、両宗教は全人類を以て兄弟姉妹

と見做し、互いにその重荷を負担し合うように呼び掛けているのである。

近代世界は、こうした友愛的な精神とは大分に懸け離れている。それは生存競争、適者生存なる所謂ダーウキンの根本法則に署名しているのであつて、即ち唯物論者なるボルシェヴィズムは、人種的な国家社会主義の如く、盲目的に此の戒律に服従する。両者ともに、生存競争は自然的生活の僅か半面を蔽うだけのもので、他の半面には第二の根本的法則、即ち相互の寛大と助力とを要求するところの戒律—即ち共同生活、換言すれば共存共棲友愛という戒律—の存在する事実を知らないのである。

今日こそは此の忘れられた第二の戒律を、国民やその指導者達の脳裏に喚び起し、彼等をして次の事実を思出させるように努むべき時機なのである。即ち若し生存競争のみが唯一の支配的な力であつたならば、原始的森林も久しい以前に殺人の為に滅亡したことであろうし、また若し母親がその孤弱なる幼児を乳養する習慣が何百万年と続かなかつたならば、凡ての哺乳類ばかりでなく、全人類までが疾うの昔に死滅してしまつたことであらう。一切の友愛主義、一切の人道主義に対して、母性的感情はその核心をなすのである。若し主我的な生存競争が人生の男性的原理であるとせば、その相対的補足は此の女性的な原理に他ならない。母は実に我と汝との間の第一の、そしてまた最強の紐帯であつて、彼女こそは一切の友愛主義の根源なのである。

此の故を以て、現代の政治及び精神生活に於ける婦人の増大せる勢力が、男性的価値の修正と友愛革命の勝利とを齎すべく、決定的な役割を果すべきことが、期待されるのだ。

ニィチェは心理学及び宇宙学の核心的現象としてのその権力意志

説を以てして、¹³竟にダーウキン及び彼の男性的¹⁴僻見より以上には、一歩も出られなかつたのである。

満腹した獅子は、単なる権力意志を以て¹⁵羚羊を追うことはない。結晶体も、花も、自然が予じめそのために指示した制限以外には生長せぬのである。即ち根本的現象は権力意志に非ずして、形成し、発展し、自由たらんとする意志に他ならない。

人間もまた発展を希望するが、併し支配せんとは希望しない。自然の本能は自由を希望するけれども、力を希望せぬ。健全に調和した人間の最高の希望は、命令を発することでも、命令を受けることでもなく、自分が肉体的、精神的知識的に発達することにある。

此の自然の本能が政治の方向によつて、圧迫され偽造されるのだ。不自由な時代にあつては、力は自由への一方法である。専制時代にあつては、専制君主の前に戦慄せずして、自由に振舞わんと欲するものは、自分また一個の専制者たらざるを得ない。

かくして自由への要求が、力への要求と変形した—即ち自由の理想が力の理想となつたのである。

されば力への希望は、自由への希望が歪曲された結果だ。権力を渴望する者は、精神的¹⁶淫虐者であり、一種の劣等感に養はれた調子外れの人物と謂わざるを得ない。

帝国主義は国民的な権力欲求であつて、これまた一種の歪曲された自由への欲求でもある。

¹⁷往昔スイス人も帝国主義的であつたが、今日彼等は此の病氣から救われている。昔の大国は今日一小国となつたけれども、スイス人は今日自分達がグスタヴァス、アドルフアスの盛時よりも遙かに善い生活を送つて居り、自分達の運命が諸大国の国民よりも却つて優つていることを知悉している。自由と平和とは、国民にとつて権力と軍事的名誉以上に重要なこと、国民の真の偉大はその征服にあるの

ではなしに、その文化的成功と、その産出した人物の完全なることに存する、と云うことも、また彼等の学び得た教訓である。

友愛主義の革命は、理想主義に署名したところの凡らゆる階級、及び凡らゆる哲学によつて推進されるのであるが、殊に基督教によつて熱烈に支持されて居り、基督教の社会的理想は実に此の友愛主義によつて完成されるのであり、たまたまそれが全体主義的国家という偶像教に反対する場合に於てのみひたすら自分自身に忠実なることを、その本旨としているのである。

農民は今日既に此の偉大なる友愛革命の為に働きつゝあるのだが、此の革命の精神こそは、実に人格主義と協力主義とを融合したのもなのだ。

マルクス主義の大敗北より正しき結論を抽出すること、及び労働階級を代表するものとして、また人権の主張を友愛主義との味方として、有力な政党となることが、正に社会民主党の為すべき大事業なのである。ブルジョアジイの団体についても同様のことが言える、即ち彼等は極端なる自由主義が被つたところの全体的敗北によつて、個人的自由の将来は友愛主義の機構内に於てのみ、始めて確保される、ものであることを、悟らねばならない。

武士道的生活様式の後継者たる人々もまた、次のような意識に於て上流階級のこうした運動に合流するのであろう、即ち寛大の徳が友愛主義によつて完成される、こと、強者の、弱者及び保護せられざる者に対する態度こそは、最適なる武士道の尺度でもある。

人間の親切が、保護せられざる者の中の最も保護せられざる者、即ち無言の畜類に対する親切によつて測定される、ように、国民の道徳的文化的の標準もまた、孤立せる少数党に対する態度に於て測られるものである。蓋し国民的或は宗教的な少数党の権利を保護するに

役立つものは、民主主義でもなければ独裁主義でもなく、実に個人に対する意気と、尊敬とを旨とする武士道と友愛主義とに止まるからである。此の問題に於て、自由なるスイスは独裁主義にとつても民主主義にとつても、また小国にとつても、一模範たることを失わないのである。

友愛主義の政治的必須条件は聯邦組織であつて、それは実に、個人から国家を作り上げる自然なる有機的方法なのである。人間から宇宙に至る道は同心円を通じて導かれている。即ち人間が家族を作り、家族が自治体を作り、自治体が郡を作り、郡が州を作り、州が大陸を作り、大陸が地球を作り、地球が太陽系を作り、太陽系が宇宙をなすのである。

各人は、こうした組合せの全部に於て、それぞれ一部分をなすのだが、併し自己が世界の中心点であることに変わりはない。その故に彼が最高の義務は自己完成であり、自己靈魂の發達にあり、醇化¹⁸された自己にある。家族に対する義務とか、その他のものがその次々に来るので、凡てこうした他の二等三等以下に属する義務は、いい加減な、散漫なもので、ともすれば宇宙の配列を紊¹⁹乱させるものである。

聯邦組織は斯様な世界秩序に即応する。それは底辺から頂点まで、世界の階級的組織を要求している。それは恰かも封建制度の如くに一の社会的尖塔であるけれども、底辺から頂上に達するもので、頂上より底辺に及ぶものではない。

聯合組織の国家は、内的に見れば自治制度であり、外的に云えば国家の聯合である。その集権的国家や、集権的な大陸や、集権的な国際聯盟の如きものを排する。

自治體は家族と人との聯合であり、郡は自治體の聯合であり、州若しくは国は郡の聯合であり、大陸は州若しくは国の聯合であり、人類は大陸の聯合である。此の體系の基本とするところは、個人や、自治

體や、国や、大陸等の自由にあり、同時に個人や、自治體、州郡、国家並びに大陸等の相互的な友愛關係を目的となし、無政府状態と、国家的全體主義を排斥する。

英帝国、北アメリカ合衆国、スイス聯邦等は、いずれも此の確固たる聯邦の基礎の上に、国家組織内に於ける自治と自由とを安定させて居る。現に此の友愛主義の原理は、従来の中央集権的国家にとつて到底解決すべからざる如くに見えた幾多の難問を解決している。

斯様にアメリカ合衆国は、アメリカに於ける組織の模範である。

スイスは欧羅巴社会に於ける組織の模範である。

英帝国は国際聯盟その他の人道的組織の改良に対する模範である。

經濟界にありては、友愛主義確立の爲めの革命が、国家社会主義や金権政治に対して挑戦している。

そは、自由經濟制度と組合とを要求する。其の目的は協同主義によつて結束せられたる独立の機關を、出来るだけ大多数設置するにある。そは經濟上の無政府と集産主義とを二つながら排斥する。其の模範は、私有財産制の凡らゆる便益と、友愛精神と相互扶助とを結合させたところの農業組合に於て發見せられる。そはソヴェエトのコルホーズの如き集散的な工場經營とも異なつて居るが、同時にまた何等の機構も、協同もない、孤立した小農の無政府的な悲惨状態とも、完全に異なつて居るのである。

此の模範は、農民以外の階級にあつても、人格と自治とを基本とする經濟聯合組織を作らんとする目的を以て、出来得る限り汎く採用されて然るべきものである。

こうした将来への道は、極端な經濟的自由を阻止し、併せてまた統制的國家經濟を除去せんと志すところの組合制度によつても指示されている。

全體主義の脱線以後、民主主義もまた新しい進路と方法とを求め

つつある。自由への復帰は最早単なる議会中心主義へではなく、人間の権利と、政治の調節への復帰を意味する此の二つの要求を缺けば、最早其処には自由も友愛もない。思うに此の両者を確保する新なる方法は、政府の権力と安定性とに向つて優良な保障を提供することと併せてまた指導者選抜の方法とによつて、即ち精神上、道徳上の貴族主義と、民主的支配とを並び行う方法によつて、初めて発見せられることであらう。

如上の目的に到達するには、教育の改革を必要とする。それには普通教育と、大学教育と、両者の改革を要求する。

ここに再び重要なのは、金権政治へ、またマルクス主義へと、導いて行つたところの、唯物的精神を克服することだ、二十世紀の科学は現に此の十九世紀の異端を撃破したのであるから、今は進んでそれを社会的並びに政治的生活より追放し、その痕跡を学校から払拭してしまうのが必要なのだ。

幼児から人々は次のような事実を徹底して教え込まれるべきである。即ち人間は不可思議な被造物で、物質界に属すると同時に神の世界にも属すること、一切の現象と物質とは精神の投影であること、人生はほんの眼を開いている間の短い現象であつて、不可思議界より不可思議界へと旅行する途中の一停留所に過ぎぬこと、従つて精神の完成と浄化とに努めずして、権勢や利得や、享樂や、富を追求するのは、全く無意義であること、等である。

更に人間の運命に関する限りに於ては、問題の重心は決して物質的方面にあるわけではない。²⁰體軀の健全な農民は、²¹跛足な富豪以上に幸福であるが、それより以上跛足で貧乏な聖者は、両者よりも比較にならぬほどに幸福であることを、よくよく教え込まなくてはならぬ。

一切の人間は、その人種、宗教、言語、階級等の如何を問わず、悉く兄弟姉妹であり、同一の神の子たることを、熟知させることが大切

である。

ただ以上の簡単な道理を忘れたことが、人類をして御粗末千萬な唯物主義に奔らしめ、物質的価値のみを過重させて、階級的憎悪心を白熱化せしめ、延いては自由を減ぼし、文明破壊の大危険に瀕せしむる原因となつたのである。全世界中の凡ての学校に、福音書からの次の聖語を、金文字を以て鏤²²刻せしめ、以てこれを青年子女の肺腑に銘記せしむべきである。

曰く「人若しその魂を失わば、全世界を獲るとも何の益をか為さんや？」と。

初等教育に於ける此の改革の先決条件として、高等教育の改革が為されなければならない。大学が唯物論や似非教育²³の温床をなしていたのでは、初等教育で理想主義を教えることは到底出来ない相談である。

大学がその名称や精神に副はなくなつたのは、それが真の教育的源泉たるの任務を捨てて、専門家の養成機関と化し、また哲学が一切の高等教育の自然的基礎たることを廢めて、特殊なる一分科となつて以来のことである。学位を得、或は学位なしで大学を出る多数の学生達が、半熟な被教育者として、容易くボルシェヴキズムや国家社会主義の如き、荒唐無稽で、經濟上到底実行すべからざる理論の捕虜となつてしまうのは、主として此のゆえに他ならない。

民主々義の復権として正に要求せねばならぬ事實は、大学が単なる智識学問の場所ではなくして、真の教育の聖殿たるべきこと、それがアゼンスの偉大ななる古典文化と伝統の道を行くべきこと、そして真の理想主義の源泉として、全體的人間主義にその形體を賦与するの任務をつくすべきこと、等である。

こうした大学の精神を以てして、始めてよく教育を振起し²⁴、精神上の貴族主義²⁵を作興して、以て似非教育と煽動政治の力を破却し²⁶、潰滅

せしめることを期待すべきである。

友愛主義の為めの改革は、全體主義的国家と全體主義的人間との、世界的闘争に判決を齎すであろう。

かくして、それが今まで人類を捉えつつあつたころの束縛から、彼等を解放するであろう。

自由の為めの改革が立往生し、平等の為めの改革が失敗した後をうけて、友愛主義の革命は、今や国民と国民との間、階級と階級との間に橋梁を架し、以て彼らの全部に対して自由なる人間が四海同胞たることの福音を伝えるであろう。

全體主義的国家は、今もなお億兆の魂を圧迫しつつある悪魔である。

然れども、舵機²⁷を按ずる一国民が、一千年以来の、個人的自由主義への把握を緩めず、なおその監視を続行しつつある限り、全世界は決して失望することを要しない。その国民の精神は、北海に於て、否全世界の海浜に於て、巖然たる注視を行いつつある。そはアゼンスの精神であり、自由の精神であり、人格主義の精神であつて、今日世界人類の大半はこれに服従を払つているのである。

全體的人間主義と云う形式は、現代の混沌裡から新に立上るのだ。

人間の歴史を遮蔽していた黒雲は、今こそ去りつつある。

精一杯元気を出せ！

(注)

- *全体主義的国家 ブルジョアジイとプロレタリアートの内乱の産児であり、その本質は軍事的国家である。
- *全体主義的人間 全体主義的人間の理想像—Gentleman と Lady。
- *三大階級 貴族、僧侶、ブルジョアジイ。
- *五大階級 貴族、僧侶、ブルジョアジイ、プロレタリアート、農民。

- | | |
|-------------------|-----------------------------|
| 1. 妨碍 (ボウゲ) | ぼうがい |
| 2. 調革 (シラベガワ) | ベルト |
| 3. 布帛 (フハク) | 綿、繊維 |
| 4. 襟布 (キンブ) | エリの裏につける布 |
| 5. 襟飾 (エリカザリ) | ブローチ、ネックレス、ネクタイ |
| 6. 遮蔽 (シャヘイ) | 他から見えなくすること |
| 7. 恰 (アタカモ) | ちょうど、まるで |
| 8. 工合 (グアイ) | かげん、あんばい |
| 9. 変物 (ヘンブツ) | へんくつな人、かわりもの |
| 10. 事端 (ジタン) | 事件の糸口 |
| 11. 大聚団 (ダイシュウダン) | 多くの人たち |
| 12. 神儀 (シンギ) | 死者の靈魂 |
| 13. 竟に (ツイに) | つまるところ、ついに |
| 14. 僻見 (ヘキケン) | かたよった意見 |
| 15. 羚羊 (カモシカ) | |
| 16. 淫虐 (インギャク) | みだらでむごたらしい |
| 17. 往昔 (オウセキ) | 遠い昔 |
| 18. 醇化 (ジュンカ) | 余分なものを取除いてまじりけのない純粋なものにすること |
| 19. 紊乱 (ビンラン) | 乱すこと、乱れること |
| 20. 體軀 (タイク) | からだつき |
| 21. 跛足 (ハソク) | 一方の足に障害がありそろわないこと |
| 22. 鏤刻 (ロウコク・ルコク) | 刻むこと |
| 23. 似非 (エセ) | 似てはいるが本物ではない、見せかけ |
| 24. 振起 (シンキ) | ふるいおこすこと |
| 25. 作興 (サッコウ) | ふるいたつこと、盛んになること |
| 26. 破却 (ハキヤク) | こわすこと |
| 27. 舵機 (ダキ) | 船のかじを直接動かす機械 |

あとがき（友愛で世界を洗濯する）

はじめにも記しましたが、私は昭和28年4月29日、東京日比谷公会堂で開催された友愛青年同志会結成大会に参加、入会。それから今日まで63年間友愛運動に微力を注いで参りました。

この間、友愛は時代の変化に伴い幾多の試練に直面し、新しい道を拓き今日に至りましたが、振り返りますとまさに感無量。多くの皆様にご指導とご支援をいただき有難うございました。

特に友愛が今日ありますのは鳩山家の変らぬご支援の賜であり、心から感謝と御礼を申し上げます。

そして、この63年間友愛運動を通じ、私なりに多くの視点から友愛とは何かを考えてみましたが、結論として友愛とは、人間の深層にある愛（母性愛）を顕在化させることです。自由と平等を友愛で繋ぐことの可否は、人間が愛を基本にして自身の欲望をどう制御できるかです。また欲望は感情であり、制御とは情と理のバランス如何によります。そして友愛社会の実現とは、公私の情と理を平衡に保ち、自己完成を目標に司の論理を超越し、人間と人間・人間と自然の共生を目指す社会であると私なりに結論を得ました。

しかし現状を考えますと、個人的には理解されるものの、集団として行動に表すことは地球規模での天変地異等の環境変化がない限り不可能のように想われます。

人間は欲望を自制しない限り、これからの生存は不可能と知りつつも連帯して自滅の道へ向うのでしょうか。

それとも科学（AI）の発達は人間の将来に対し、自滅を予知し人間を共生の方向に向わせるのでしょうか。

また、人間研究が進めば人間は自らの欲望を制御し、新たな道を拓くことが出来るのでしょうか。

中近東はどうなるのでしょうか。貧富の是正や民族、宗教の対立に世界はどう対処するのでしょうか。

究極の人間とは何か。人間にとって永遠の課題でもあります。環境の変化は急激で、現在の1年は過去100年の変化に相当するという学説もあり、人間は変化に気づきながらも素早く対応しようとしません。**赤信号みんなで渡れば怖くない**、人間は危険に向って急いでいるのでしょうか。

人間のエゴにより、地球の自然や生態系は破壊され、人間が自らの欲望を自制しなければ人間の生存が脅かされる時代になりました。自制とは、人間が自我を抑制することです。

世界の軍事費は1兆7,760億ドル(213兆円)にも達し、ますます増大する傾向にあります。世界平和の第一ステップは貧富の格差是正にあります。この軍事費の10%を格差解消の予算にしたら世界はどう変わるのでしょうか。諸国のリーダーは、問題解決の糸口を理解しているものの、自国のエゴと防衛の名のもとに、相変わらず軍拡の方向に進むのでしょうか。

日本友愛協会は、人間が気づきながらも敢えて目を向けない厳しい現実を、世界の人々に認識していただき、人間と人間は勿論、人間と自然の共生こそ、人間の幸せと平和を永遠に招来する唯一の手段であることを、世界に伝播するための機関です。

科学の発達や経済の協調は異体制間の交流をすすめ、人種、民族、宗教、国家の壁を超え、富の公平な分配や文化を融合し、相互理解を深めます。そして21世紀後半には、平和を希求する市民のパワーで世界は連帯化に向い、友愛社会に近づくものと推測します。

人間の叡知は自らの将来に対し、生きる道を必ず拓くと信じます。

日本を今一度せんたくいたしたく候ではありませんが、世界のリーダーは、人間の幸せと平和を実現するため勇気をもって、友愛で世界をせんたくするための行動を興す時ではないのでしょうか。

世界は今大きな変革期にあり、人間交流の活性化こそ相互理解促進のチャンスでもあります。

また友愛という言葉やイメージは LOVE を連想し、ナイーブで

弱々しく、覇権の時代に友愛は螻蛄の斧ではないかという指摘を多くの方からいただきましたので私見を記します。

— 友愛という語感 —

自由、平等は強い響きがあり共鳴できますが、友愛は響きが柔らかく優しい感じで、これで革命ができるのかと想われます。

しかし、友愛革命は力による革命ではなく母性愛を核とした人々の心の革命であることを考えますと、優しく柔軟性のある友愛という言葉は素晴らしく、時代の変化とともに人々の心にゆるやかに浸透していくものと信じます。

— 友愛のイメージ —

友愛社会は世界平和の理想であり必要だと思う。やがて友愛の時代が来るかも知れない。しかし、なんとなく現実から乖離している。多くの方はそんな感じで理解しているようです。

本音の部分では、正しい、必要だと思っていることでも、それを行動に移し、実行し、成果を上げるには当り前のことでも不屈のやる気と勇気が必要であり、焦ってはなりません。遠からず人間は存亡の危機を認識するように想われます。そしてその時こそ世界は転換期となり、友愛は人間社会の幸せと平和を実現するための思想として世界に認知されると思います。友愛のイメージはやさしい感じですが、その根幹は愛(母性愛)を原点としての柔軟さと強さを秘めた言葉でもあります。

— 友愛は螻蛄の斧か —

世界の大国は武力(核)を背景に覇権を競い熾烈な様相を深めております。

人類の歴史は力そのものであり、大国の覇権に友愛思想は対応できるのでしょうか。

現代の覇権は武力(核)と経済、そして金融の総合力であり、かつての帝国主義と違い植民地支配はありませんが、覇権国家繁栄の構図であることに変わりありません。

しかし 21 世紀後半、覇権はピークに達するとやがて共生に変化し、世界は国家の大小に拘わらず、異体制間の和解がすすみ、共存共栄の新しい時代になると思います。

世界のリーダーはこの潮目をしっかり見極め、異体制間の調和促進は勿論ですが、共栄を目標に友愛で世界を洗濯し、新しい国際秩序の確立に努め、21 世紀末までには輝く未来を拓くと信じます。友愛に賛同する皆さんの行動に期待します。

尚、人間につきましては、世界の賢者の言葉を参考までに提示しましたが、愛以外人間の矛盾について具体的に解決する道は示されず、人間のエゴの複雑さと性の頑強さを痛感し、世界平和の実現は友愛革命以外にないと私は確信した次第です。

この拙文を作成するに当り、多くの文献を参考にさせていただきました。本来なら著者、著書名を列記すべきところですが失念したものもあり省略いたしましたのでご海容賜りたくお願い申し上げます。

また、文章の重複や、多くの言葉を引用しましたが、新しい発想だと思っても過去を紐解けばすでに誰かが言っていたりするもの（カント）、殆ど人の意見は受け売りに過ぎない（フロム）、という賢者の意見に鑑み、私自身の稚拙な考え方や言葉遣い、そして不明についてもご容赦願えれば有難く存じます。

そして『自由と人生』の「友愛革命」の章は友愛の基本ですので、参考までに原文を掲載しました。

2016 年 6 月 16 日

川手 正一郎